高知市文化財調査報告書第20集

介良遺跡 Ⅲ

介良川ふるさとの川モデル事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

1999. 6

高知市教育委員会

介 良 遺 跡 Ⅲ

1999. 6

高知市教育委員会

序

水稲耕作が本格的に始まる弥生時代以降は，全国的にも低湿地に集落が立地するようになってきます。その大部分が沖積平野上に立地する高知市でも，弥生時代から古墳時代にかけて周辺部から次第に本格的な定住が始まったことをうかがわせる遺跡が発見されるようになってきました。今回調査された介良遺跡は，朝倉地区に立地する柳田遺跡とともにそのような遺跡の代表的なものです。

高知市では「ふるさとの川モデル事業」として，介良地区において自然環境と調和のとれた開発を行うことになりました。この事業に伴う事前調査として，合計４年間（試掘調査１年間・本発掘調査３年間）にわたって発掘調査が実施されてきました。本年度はその最終年度に当たります。

介良地区は古代の資料「和名類聚抄」以来多くの文献に登場する歴史の古い地域ですが，高知市教育委員会では先に，「高知市文化財調査報告書第９集」として同地区の調査結果をまとめています。今回の調査が高知市及び介良地区の歴史や文化財についての理解を更に深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが発掘調査にかかわられた方々にお礼申し上げますとともに，関係各機関のご理解とご協力に感謝いたします。

平成11年６月　高知市教育委員会

例　言

1．本報告所は高知県高知市介良に所在する「介良遺跡」の発掘調査報告書である。平成８年度調査は(財)高知県埋蔵文化財センター，平成９年度の調査を高知市教育委員会が行っており，それぞれ「介良遺跡」「介良遺跡Ⅱ」として報告されているため，本書の表題を「介良遺跡Ⅲ」としている。

2．発掘調査は高知市下水道部河川水路課が四国土建株式会社に委託し，高知市教育委員会が全般的な指導を行った。

3．調査体制は以下のとおりである。

調　査　員　田上　浩（高知市教育委員会）
〃　十河和憲（　〃　）H.10.10～H.11.5
〃　中澤忠邦（　〃　）H.11.4～
〃　篠原義人（　〃　）H.11.5～
調査補助員　松田重治（四国土建株式会社）
現 場 管 理　豊永主政（　〃　）
調 査 期 間　平成10年10月１日　～　平成11年６月30日
調 査 面 積　5,502㎡

4．発掘調査は田上の指示のもと松田が行った。遺物は高知市教育委員会で保管している（遺物の注記はKK-98とした）。

5．本書の編集は高知市教育委員会総括の下，編集全般を松田が行った。本文は第Ⅰ章及び第Ⅳ章試掘調査の結果を田上，それ以外を松田がそれぞれ執筆した。

6．発掘調査及び整理作業において下記の方々の協力を得た。(順不同・敬称略)

発掘調査	岡崎拓，岡崎正男，岡田真賢，岡村隆治，岡本薫，加治正一，加治正敏，川村誠一郎，北添隆清，関野勝治，福冨明夫，竹村達臣，三谷清水，森岡和信，山路福男，田中和子，浜口栄子，山本孜子
整理作業	池本千鶴，井口華代，伊藤民，入野光代，上田由香，岡村好子，金岡玄子，土居富喜尾，土居満奈美，豊永政子，西森千枝，橋田美知子，弘田寿子，福冨宣子，松村文枝，三木知佳，森栄美，矢野睦子，山中由貴子，山本栄子，横田繁子
発掘調査重機掘削	(有)共運工業
航空測量	(株)アイシー
木製品保存処理	(株)吉田生物研究所

7．現地での測量には国土座標系（第Ⅳ系）を利用した。

8．発掘調査並びに報告書作成に当たり，下記の諸氏・諸機関から助言，教示を賜った。記して感謝したい。(順不同・敬称略)
森田尚宏，出原恵三，前田光雄，吉成承三，坂本憲昭，山中美代子，高知県教育委員会文化財保護室，(財)高知県埋蔵文化財センター

本　文　目　次

序・例言

目次〈本文目次・挿図目次〉

第Ⅰ章　調査に至る経過 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の概要と層序 …… 4
第1節　遺跡の概要 …… 4
第2節　基本層序 …… 4

第Ⅲ章　調査の成果 …… 9
第1節　1区の調査 …… 9
第2節　2区の調査 …… 34
第3節　祠の調査 …… 42

第Ⅳ章　試掘の結果 …… 46

遺物観察表 …… 55

第Ⅴ章　おわりに …… 66

写真図版 …… 69

報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　調査区配置図（１区）…… 2
第２図　調査区配置図（２区）…… 3
第３図　基本層序（１区）…… 5
第４図　基本層序（２区）…… 7
第５図　遺構配置図（１区）…… 11
第６図　１区SR出土遺物（１）…… 13
第７図　１区SR出土遺物（２）…… 14
第８図　１区SR出土遺物（３）…… 15
第９図　１区SR出土遺物（４）…… 16
第10図　１区SR出土遺物（５）…… 17
第11図　１区SR出土遺物（６）…… 18
第12図　１区SR出土遺物（７）…… 19
第13図　１区SR出土遺物（８）…… 20
第14図　１区SR出土遺物（９）…… 21
第15図　１区SR出土遺物（10）…… 22
第16図　１区SR出土遺物（11）…… 23
第17図　１区出土石器 …… 24
第18図　SD103土層 …… 25
第19図　SD108出土遺物 …… 25
第20図　SD103出土遺物（１）…… 26
第21図　SD103出土遺物（２）…… 27
第22図　TR106遺構検出状況（SD104）…… 28
第23図　SD103・104土層 …… 28
第24図　SD104出土遺物（１）…… 29
第25図　SD104出土遺物（２）…… 30
第26図　SD104出土遺物（３）…… 31
第27図　１区洪水砂礫層出土遺物 …… 33
第28図　SD201土層 …… 34
第29図　SD202土層 …… 34

第30図　SD 203土層 …… 34
第31図　2区遺構配置図 …… 35
第32図　2区SR出土遺物（1） …… 37
第33図　2区SR出土遺物（2） …… 38
第34図　SD 204土層 …… 39
第35図　SK 201土層 …… 39
第36図　SB 201平面・土層 …… 40
第37図　2区出土遺物 …… 41
第38図　祠出土遺物（1） …… 42
第39図　祠出土遺物（2） …… 43
第40図　祠出土遺物（3） …… 44
第41図　祠平面・土層 …… 45
第42図　試掘・調査区配置図 …… 47
第43図　試掘坑配置図，Ⅱ区・TP－3平面図 …… 48
第44図　Ⅰ区出土遺物（1） …… 49
第45図　Ⅰ区出土遺物（2） …… 50
第46図　Ⅱ区出土遺物 …… 53

第Ⅰ章　調査に至る経過

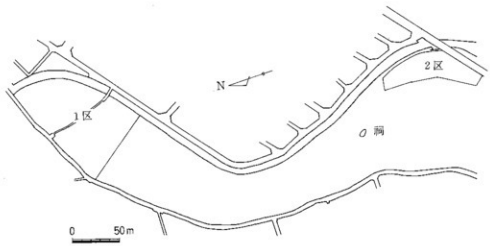
高知市教育委員会では，高知県教育委員会の協力を得て，平成３年度に市内の詳細遺跡分布調査を実施した。その際新たに発見された遺跡の一つが介良遺跡であり，弥生時代以降現代までの遺物がほぼ連続して散布する複合遺跡である。

この度，高知市では市民に親しまれる良好な水辺空間を形成するために，「ふるさとの川モデル事業」として，遺跡の東端を流れる介良川の改修及び親水公園の整備を行うことを計画した。この計画を受けて，文化財保護の担当部局である高知市教育委員会と河川改修の担当部局である高知市下水道部との間で協議がもたれ，計画地内において遺構・遺物の有無を確認するため，高知市教育委員会では高知県文化財団埋蔵文化財センターの協力を得て，事前の試掘調査を行った（平成７年度調査）。

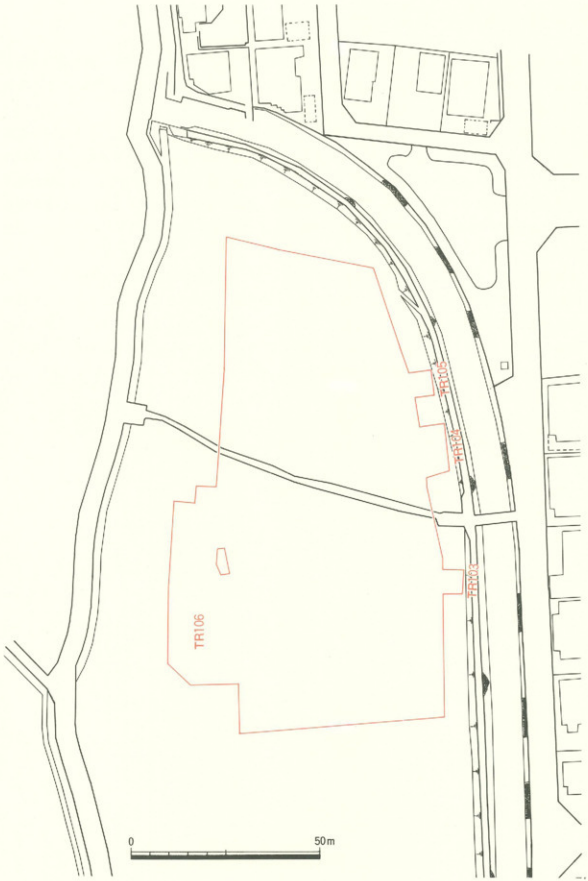
試掘調査においては，明確な遺構は検出できなかったが，介良川の流路に近い部分において，弥生時代から古墳時代を中心時期とする土器や木器などの遺物が大量に出土し，特に木器は低湿地であるため良好な残存状況であった。この結果を受けて，再度両者の間で協議がもたれ，工事によって影響を受ける部分のうち介良川の流路に近い約１万２千㎡について記録保存を目的として平成８年度から３年計画で本格的な発掘調査が行われることとなった。本年度はその最終年度である。

過年度及び本年度の調査体制は以下の通りである。

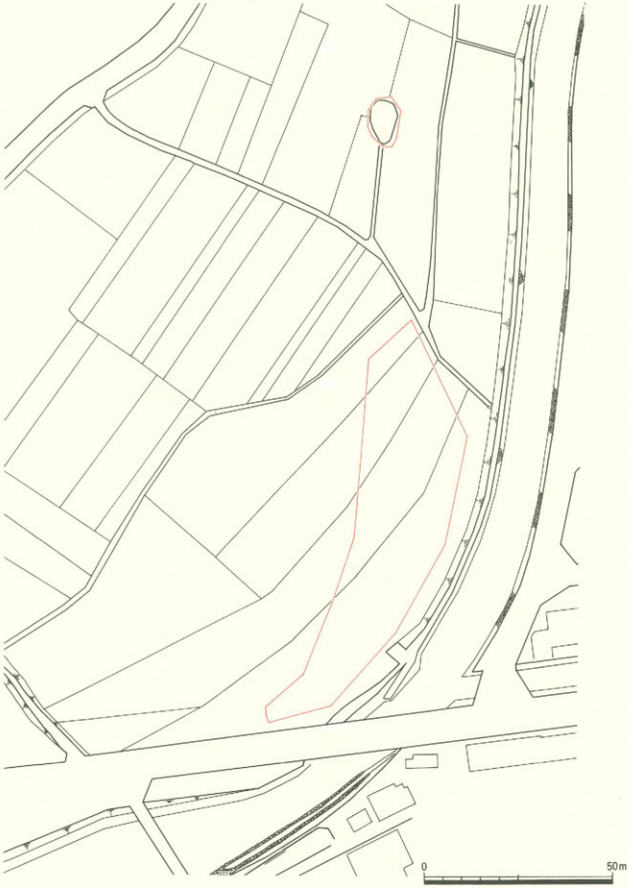
・平成８年度　調査主体　高知県文化財団埋蔵文化財センター
・平成９年度　調査主体　高知市教育委員会（調査協力　四国土建株式会社）
・平成10年（本年）度
　事業主体及び事務　高知市環境下水道部河川水路課
　調査主体及び事務　高知市教育委員会社会教育課



本年度の調査範囲



第1図　調査区配置図（1区）



第２図　調査区配置図（２区）

第Ⅱ章　遺跡の概要と層序

第1節 遺跡の概要（第1～2図）

1区は当初，中央部を南北に抜ける小径を挟んで1区，2区に分けて調査を行い，本書における2区も3区として調査を行った。1，2区とも遺物量は少なく，3区調査終了後に小径の撤去と同時に堤防沿いに小トレンチの開口と2区北辺を北に約5m拡張した結果，遺物量は倍増した。その後，報告書編集段階において1区と2区をひとまとめにして1区，それにともない3区を2区としている。

今年度の調査も1～2区を通して前年度までと同様，介良川の旧河道と見られる自然河川（SR）が調査の中心となる。1区では弥生時代後期から古墳時代前期の遺物が大半を占め，一部弥生時代前期や同中期の遺物も見られる。また，土器とともに鍬先や竪杵，板材などの木器も多く出土している。その他では溝状遺構が数条検出され，弥生時代前期末のSD103からは磨製の石剣が出土している。古代の溝と見られるSD104からは同一層内より弥生時代終末頃から6世紀ごろにかけての土器，須恵器が共存しており，長期間にわたって利用されてきたものである可能性が強い。

2区SRも遺物の中心時期は弥生終末～古墳時代初頭頃であるが，上層には古代の須恵器や布目瓦が混在している。ここでは木器はみられず，遺物は土器が中心となる。その他では，先述のSD203，これに先行するSB201，中世の土坑であるSK201，時期不詳の柵列（SA201）などが検出されている。

1～2区の他に2区の北，96年度調査分の西に位置する祠の調査を行っている。ここは戦後しばらくまでこの場所に所在した神社の跡である。出土遺物には中世頃の陶磁器のようにかなり古いものも見られるが，建立時期が不明なため，にわかにこの祠に伴うものであるかを判断するには至らない。主な出土遺物は近代頃と見られる瓦に混じって中世以降の陶磁器が多く見られ，古くは青磁碗や東播系の捏ね鉢，15世紀頃の擂鉢などが出土している。

第2節 基本層序（第3～4図）

基本層序は1区，2区とも同様な堆積状況を呈し，それは大きくⅠ～Ⅷ層に分けられる。

Ⅰ層　客土である。上半は雑草等による撹拌がみられ，土壌化している。

Ⅱ層　中世以降の包含層である。

Ⅲ層　弥生時代～古代にかけての遺構埋土・包含層である。長期間，この地が湿地帯であったことを示すものであろう。

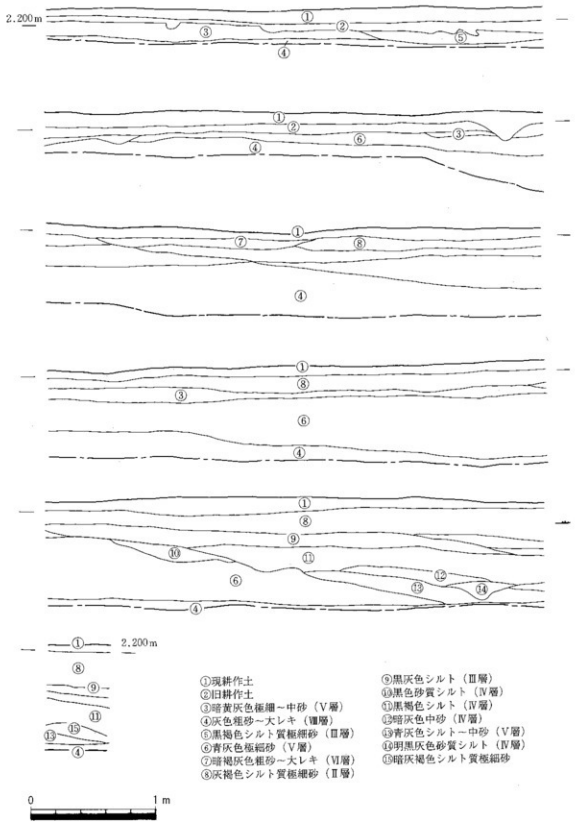
Ⅳ層　基本的にはⅢ層と同質であるが，埋土中に植物遺体を多く含むためにあえて分層した。

Ⅴ層　グライ化した極細砂層である。弥生時代以降の地表面である。

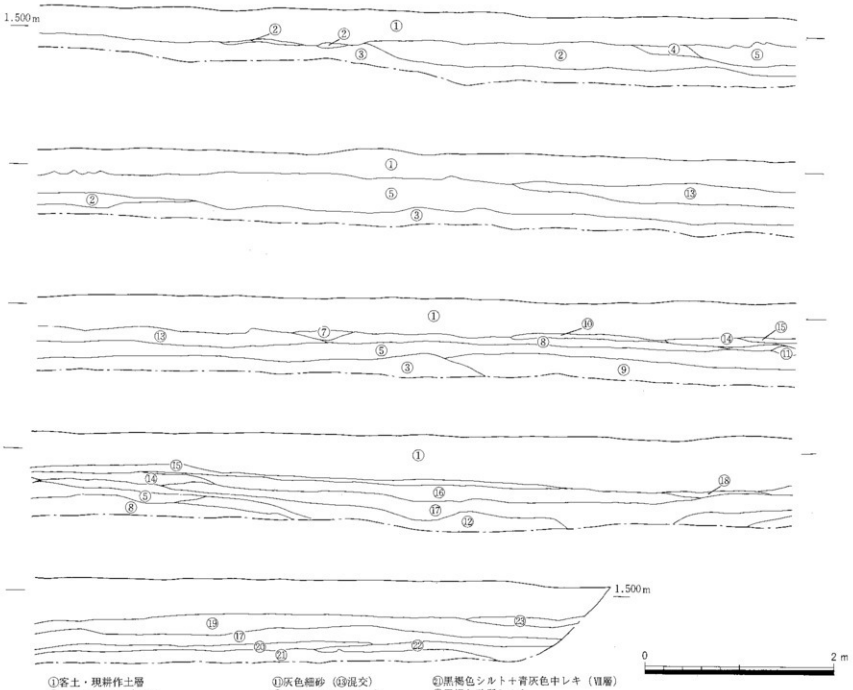
Ⅵ層　近・現代の洪水礫層である。陶磁器類や瓦に混じって須恵器や，中・近世の陶磁器片も多く含む。

Ⅶ層　黒灰色シルト（Ⅲ層）と青灰色礫が混交した層である。遺物の傾向はⅢ層及びⅣ層との大きな差異は見られない。

Ⅷ層　ベースになる礫層である。


2.200m
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
2.200m
0
1 m
①現耕作土
②旧耕作土
③暗黄灰色極細～中砂（Ⅴ層）
④灰色粗砂～大レキ（Ⅶ層）
⑤黒褐色シルト質極細砂（Ⅱ層）
⑥青灰色極細砂（Ⅴ層）
⑦暗褐灰色粗砂～大レキ（Ⅵ層）
⑧灰褐色シルト質極細砂（Ⅱ層）
⑨黒灰色シルト（Ⅲ層）
⑩黒色砂質シルト（Ⅳ層）
⑪黒褐色シルト（Ⅳ層）
⑫暗灰色中砂（Ⅳ層）
⑬青灰色シルト～中砂（Ⅴ層）
⑭明黒灰色砂質シルト（Ⅳ層）
⑮暗灰褐色シルト質極細砂

第３図　基本層序（１区）



①客土・現耕作土層
②青灰色極細砂（Ⅴ層）
③黄橙色粗砂礫（ベース）
④黄灰色中～粗砂（洪水砂層）
⑤褐色粗砂～中礫（洪水砂礫層）
⑥灰色粗砂レキ（洪水砂礫層）
⑦黒灰色シルト質極細砂（ＳＤ202埋土）
⑧灰黄色粗砂
⑨赤褐色粗砂礫（ベース）
⑩灰白色粗砂
⑪灰色細砂（⑬混交）
⑫灰白色シルト～細砂
⑬青灰白色シルト質極細砂
⑭褐色中砂
⑮暗褐色シルト質極細砂
⑯暗褐色シルト質極細砂
⑰暗灰色シルト質極細砂
⑱黒灰色シルト質極細砂
⑲灰色シルト質極細砂～細砂
⑳暗褐色シルト（Ⅳ層）
㉑黒褐色シルト＋青灰色中レキ（Ⅵ層）
㉒黒褐色砂質シルト
㉓暗褐色シルト質極細砂

第４図　基本層序（２区）

第Ⅲ章　調査の結果

第1節　1区の調査

弥生時代前期から古墳時代前期の遺構と遺物

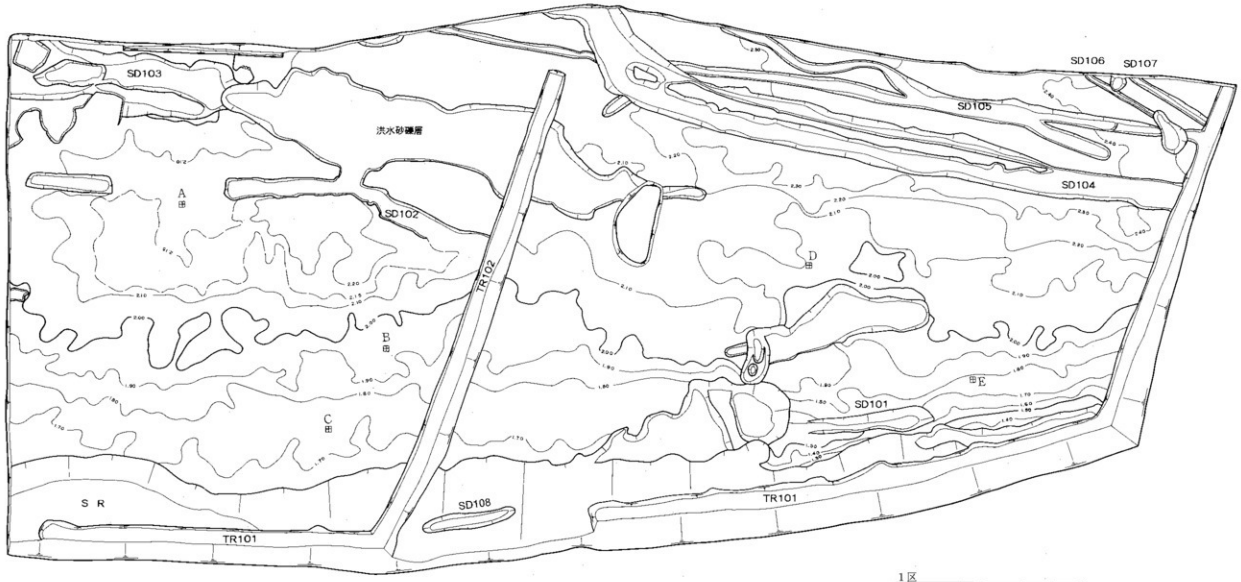
SR（第5～17図）

調査区南辺に平行するように存在し，前年度のSR201に接続する自然河川である。Ⅲ・Ⅳ層を埋土とするが，Ⅳ層が厚く堆積し，遺物は川底となるⅤ層との境に多く見られた。遺物の時期幅は前年度の調査と比較して幅広く，弥生時代後期から古墳時代前期が中心であるが，少数ながらも弥生前期や同中期も見られる。なお，前年度の中心となった「ヒビノキ式」は数量的にも割合的にも昨年度よりもかなり少ない。

SRにおいて最も多く遺物が出土したのはTR104～106であり，土器，木器を含めて遺物の大半が堤防沿いに穿ったトレンチからの出土である。堤防沿いにはさらに連綿と存在していることが容易に推測できるが，安全面を考慮するとともに公園整備の際にも改変が行われないということで全面的な調査は見送った。遺物の傾向としては，今年度は弥生前期から後期にかけては壺・甕といった日常品が目立つが，中には装飾を施したものも見られる。古墳時代前期では小型丸底壺や高坏など祭祀遺物もみられる。弥生時代前期の土器は3，33，52であり，いずれも甕である。3は体部外面ハケ調整のちヘラミガキで仕上げる。33は4条のヘラ描沈線を持ち，外面を細かいハケで仕上げる。52は口縁端部に刻目文を施す。弥生中期には1，4～6，10，11，17，69とやや個体数を増す。いずれも壺であり，69を除くいずれもが口縁部に粘土を貼付し，肥厚させている。これらの中にも貼付口縁の簡略化された4，体部に列点文を施す5，口縁部に刻み目文を施す6などがある。後期になると遺物量は大幅に増し，2，8，12～16，18，27，28，30，31，34，38，41～45，47～50，56，57，61～66，68，75がそれにあたる。この中で体部外面にタタキメを有する，いわゆる「ヒビノキ式」は18，27，28，30，31，34，38，41～45，47～50，75である。甕が圧倒的に多く，器種不明なものを除くと壺は15のみである。タタキ後の調整は何も施さないもの（30，43，44，45，47，49，50）とタタキのあと，ハケを施すもの（31，34，48）である。昨年度少数ながら見られた，タタキのあとナデを施すものは丸底壺（75）の1点である。また，底部を除きタタキの方向も左上がりのもの（15，30，34，49），平行のもの（44，45，47，50，75），右上がり（25，43）がみられる。

木器に関しては，祭祀に関連するものとしては82の陽物が見られるのみである。農耕具には79，84のような曲柄又鍬，83のような曲柄平鍬や，93，94のような直柄平鍬，95のような一木平鍬も見られる。その他，木錘（81）や横槌（89，90）竪杵（91，92），木匙（85），腰掛と思われる100など生活用品も多く見られる。

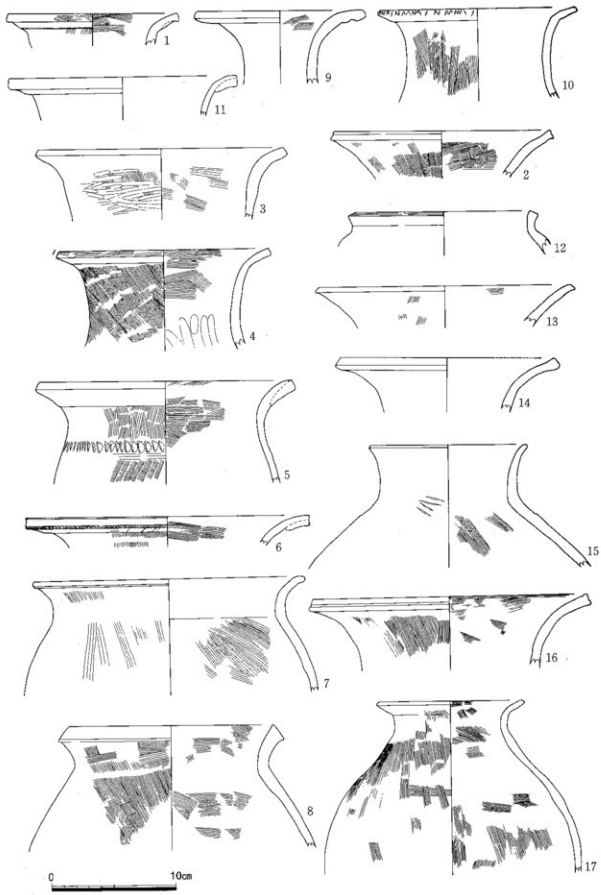
石器には石包丁が見られるのみである。打製が頁岩を使用した114，サヌカイト製の118，磨製がともに緑色岩を使用した115，116が出土している。なお，118はスクレイパーである可能性もある。



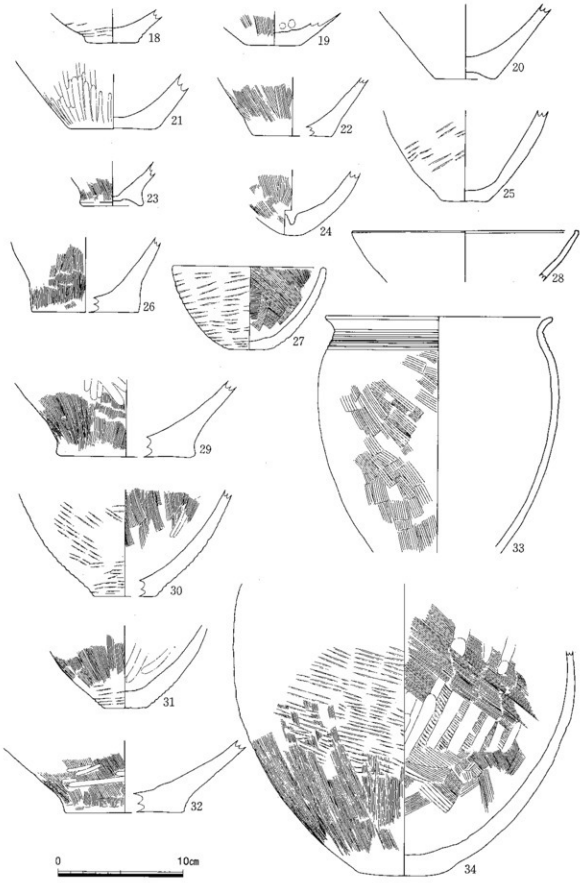
1区

ポイント名	X座標	Y座標
A	62175.000	10624.000
B	62175.000	10644.000
C	62167.000	10644.000
D	62200.000	10668.000
E	62200.000	10684.000

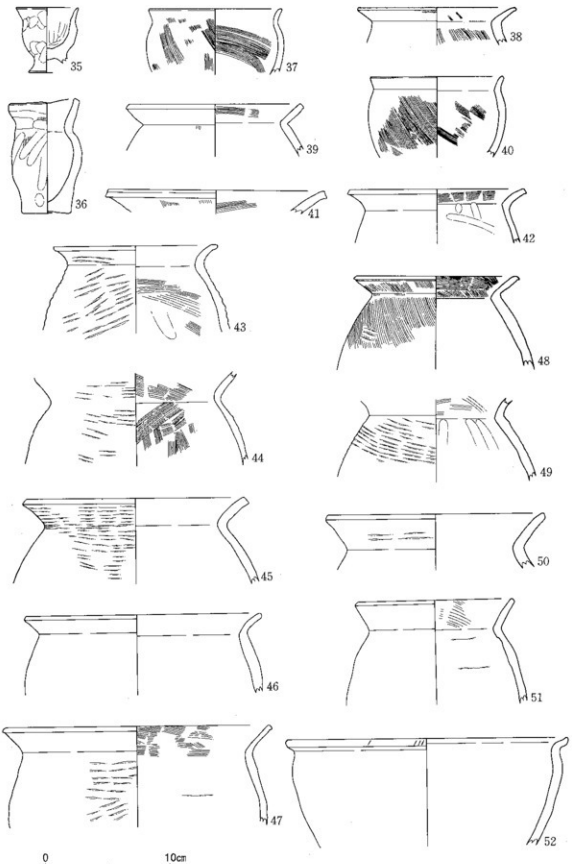
第5図　遺構配置図（1区）



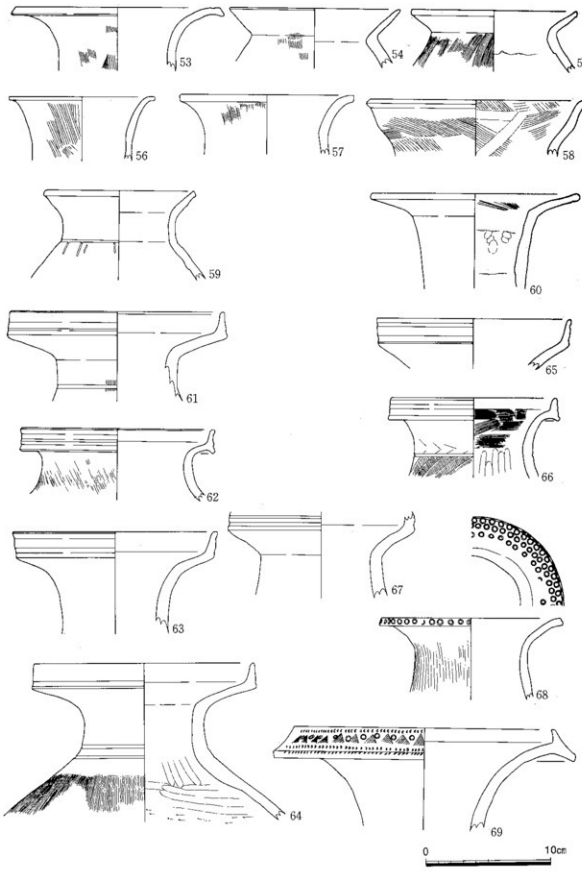
第6図　1区SR出土遺物（1）



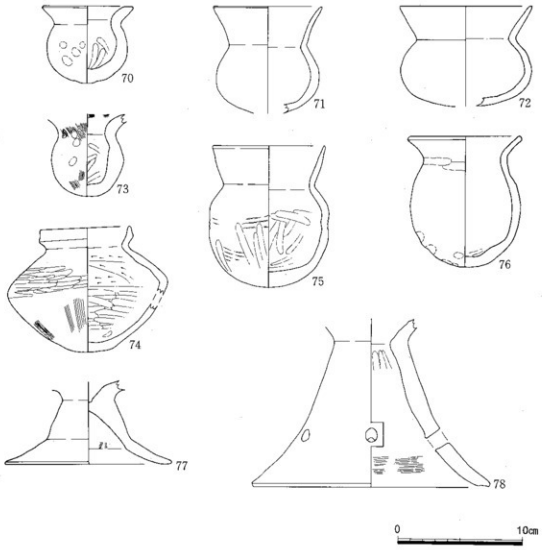
第7図　1区SR出土遺物（2）



第8図　1区SR出土遺物（3）

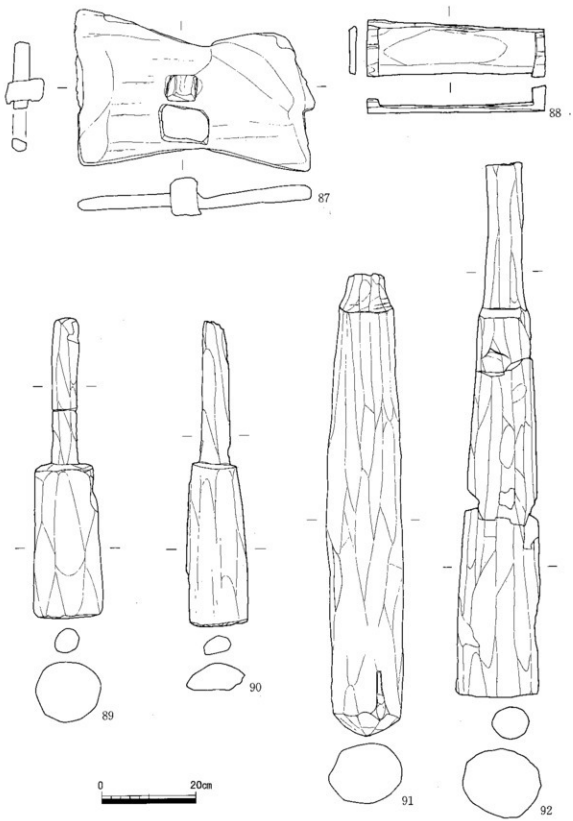


第９図　１区SR出土遺物（４）

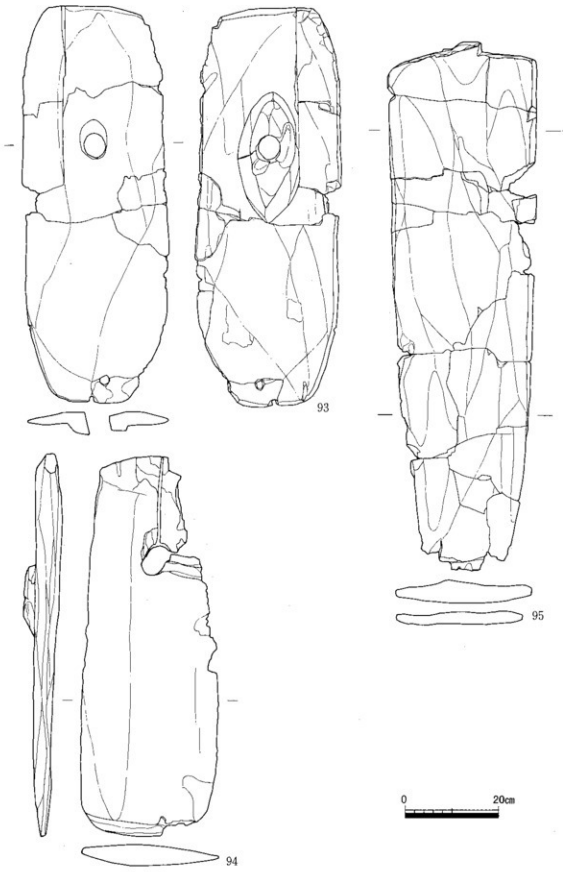


第10図　1区SR出土遺物（5）

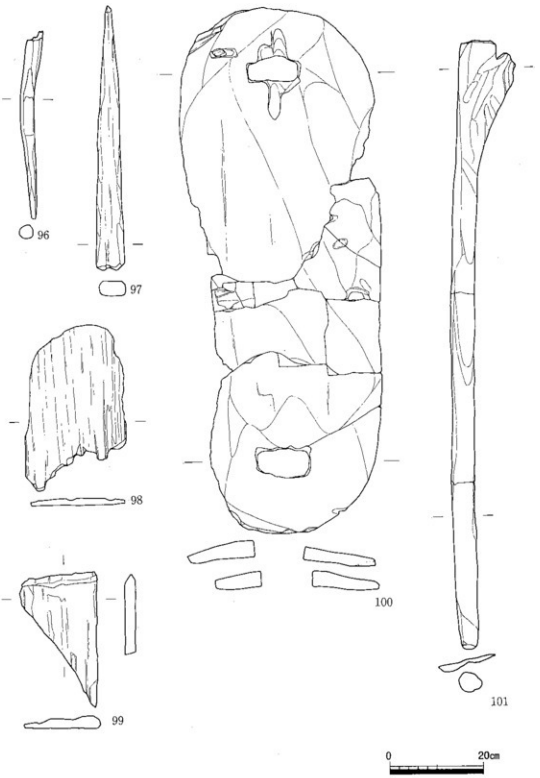
第11図　1区SR出土遺物（6）



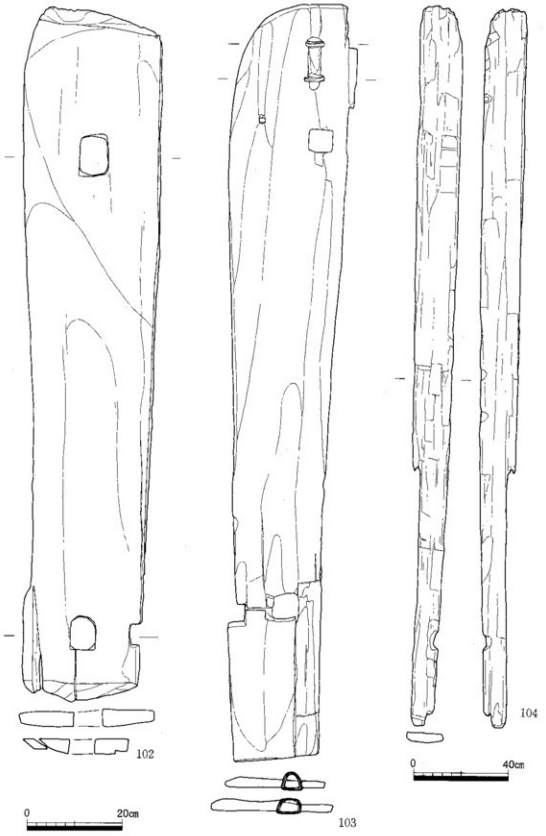
第12図　1区SR出土遺物（7）



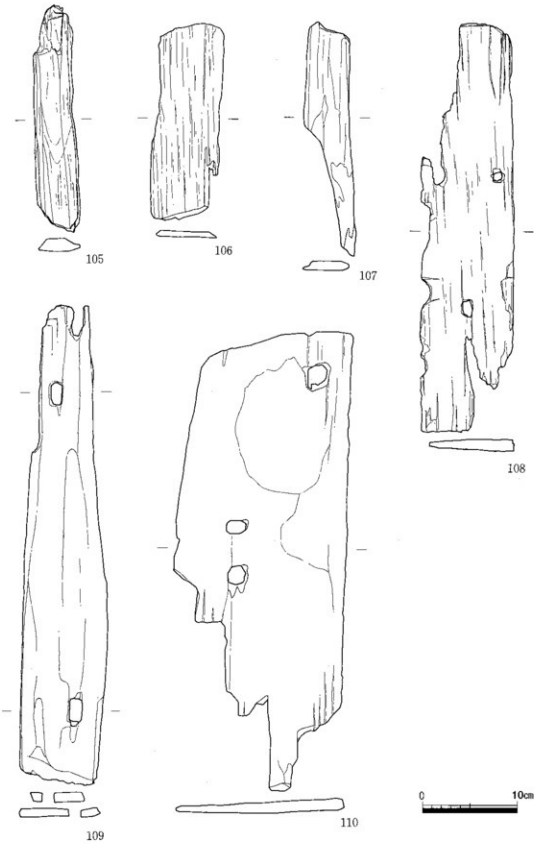
第13図　1区SR出土遺物（8）



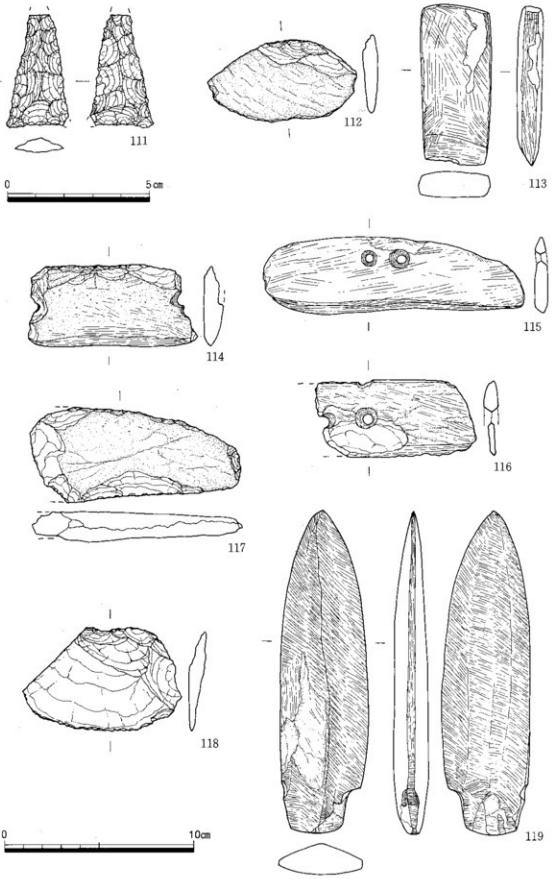
第14図　1区SR出土遺物（9）



第15図　1区SR出土遺物（10）



第16図　1区SR出土遺物（11）



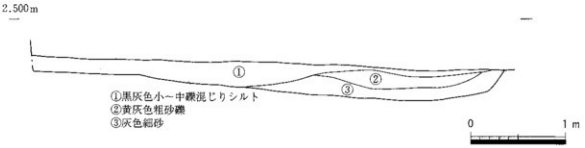
第17図　1区出土石器

弥生時代前期の遺構と遺物

SD103（第15，17，18，20，21図）

調査区北辺に沿って西流，その後やや南に方位を振る弥生前期末の溝状遺構である。東方の埋土の上層は暗褐色シルト，下層は黒色シルトであるが西方はその間に黄灰褐色中砂を持つ。

121～126は壺，127～135は甕である。121～123は口縁部，124，125は頸部，126は体部であるが，いずれも１～４条のヘラ描沈線を持ち，125，126はヘラ描沈線の間に押圧凸帯を貼付する。127～129，131～134は口縁に刻み目を，129，132，134，135は肩部に１～２条のヘラ描沈線文を施す。全体的に磨滅が著しいが，中にはハケ調整が顕著に観察できるものもある。151は底部に２条のヘラ描沈線を施し，160には細かいヘラミガキが見られる。また，黄灰褐色中砂層からは石器が３点ではあるが出土している。その中でも特筆すべきは119の磨製石剣である。頁岩を使用するこの石剣は刃部に面取りを行い仕上げていることから実用品と見るよりはむしろ祭祀に関連したものと見られる。高知県下においても最も古いものに位置付けることができよう。113は蛇紋岩製の磨製石斧，117は頁岩製の打製石鏃である。

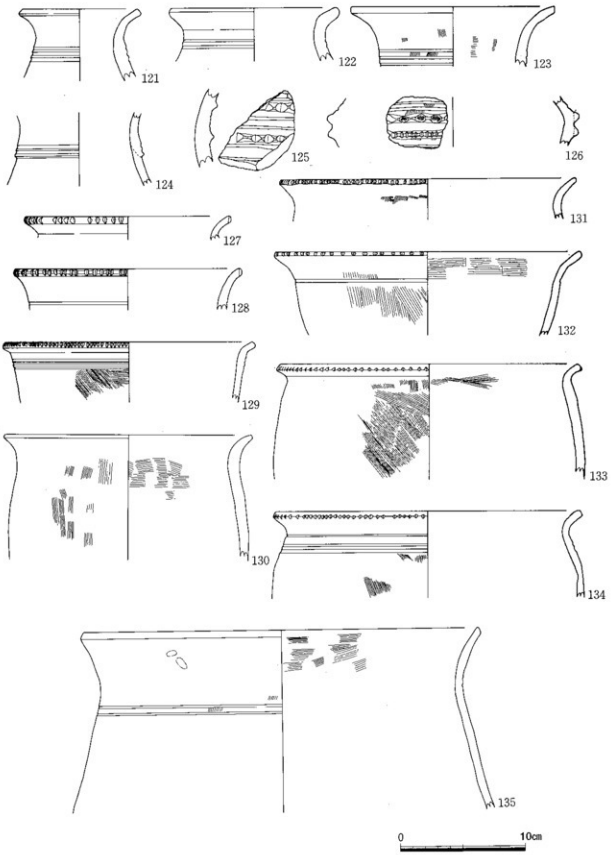


第18図　SD103土層

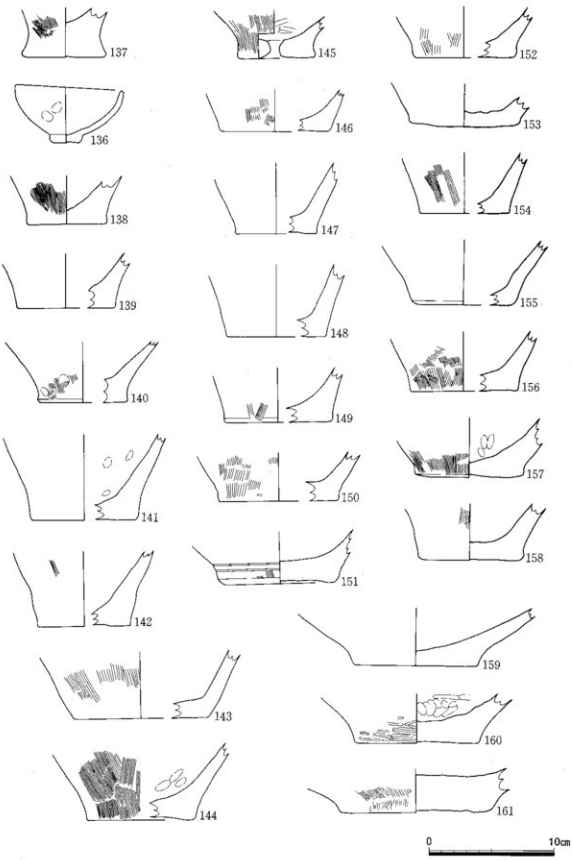
SD108（第５，19図）

SR内，テラス部分を西流する溝状遺構である。Ⅲ層中に弥生時代前期中葉頃の遺物を含む。遺物は120の１点のみであるが，現存率は良く，口縁部に刻み目を施し，体部には段を有する。

第19図　SD108出土遺物



第20図　SD103出土遺物（1）



第21図　SD103出土遺物（2）

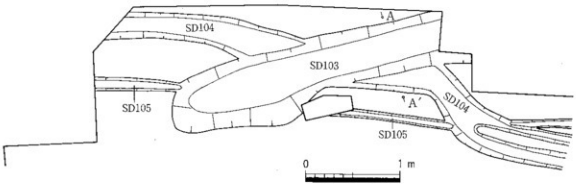
古墳時代の遺構と遺物

SD104（第5，17，22～26図）

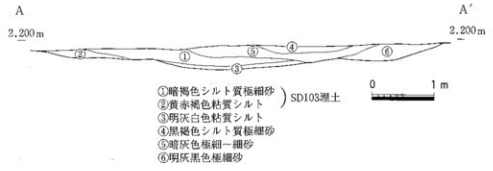
SD103の南側を西流，その後SD103を横切って再び西流する溝状遺構である。土層は2層に分層できる。上層には須恵器も多く見られるが，上下層とも弥生時代終末頃から古墳時代前期の遺物が多く見られ，この溝が長期間にわたって利用され続けたことを覗わせる。また，古墳時代前期頃の高坏も多く見られ，祭祀との関連性が考えられる。

弥生前期末頃の遺物は壺の頸部である172が1点見られる。しかし，これは切り合うSD103からの混入品である可能性が高い。111はサヌカイト製の石鏃である。頂部を欠損する。112は粘板岩製の石包丁である。

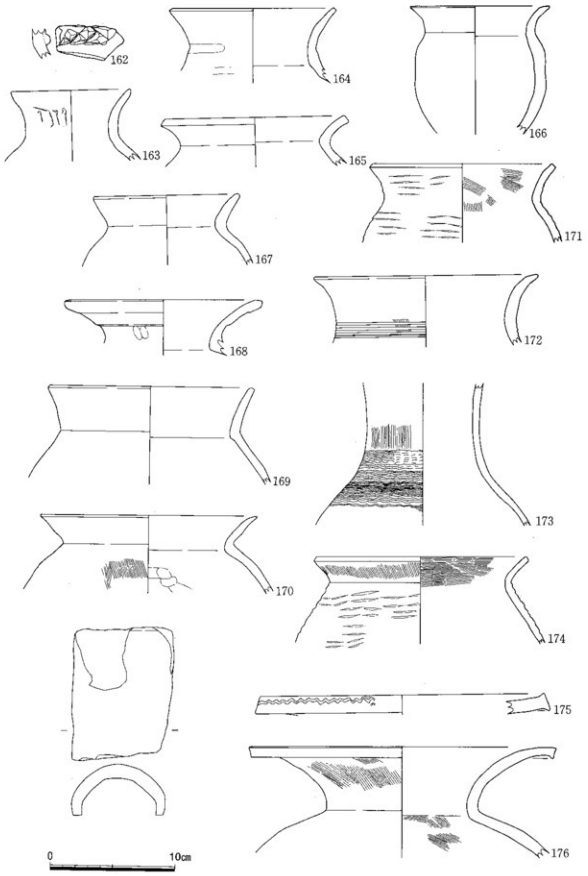
また，上層に見られた須恵器は179，190，196である。179は坏蓋で6世紀中葉，190，196は甕でともに5世紀末頃の所産であろう。



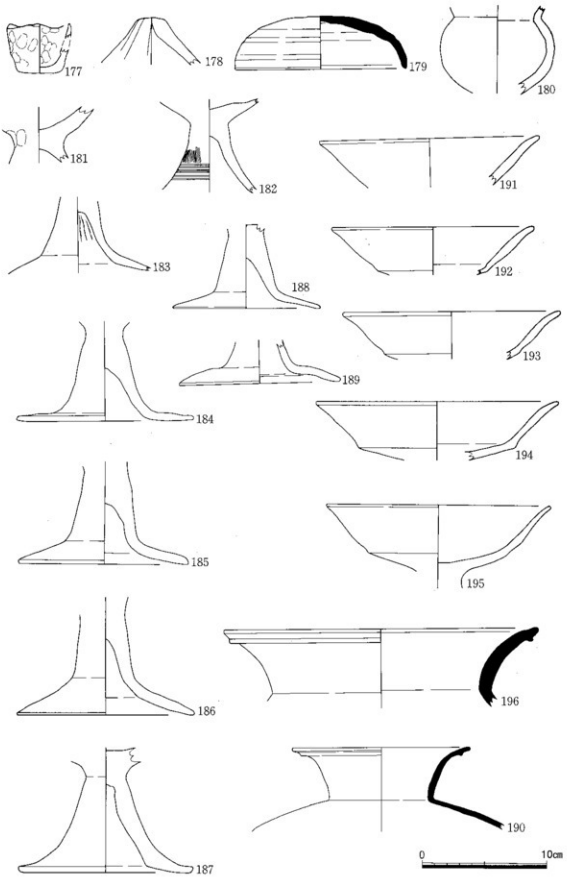
第22図　TR106遺構検出状況（SD104）



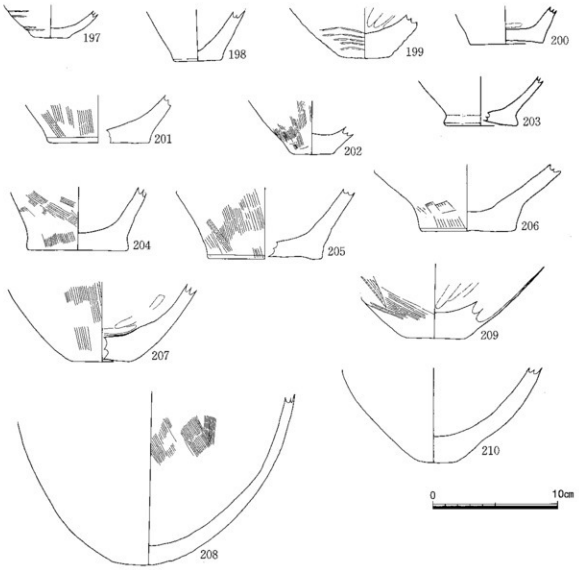
第23図　SD103・104土層



第24図　SD104出土遺物（1）



第25図　SD104出土遺物（２）



第26図　SD104出土遺物（3）

その他の遺構と遺物

SD101（第5図）

SRの北辺に接するように存在する小溝である。遺物を含まないため，時期は不明である。

SD105（第5図）

SD104の北を一直線に西流する小溝である。途中をSD104に切られるため，弥生時代終末期以前であることは明白であるが，遺物が皆無であるために時期を決定するには至らない。

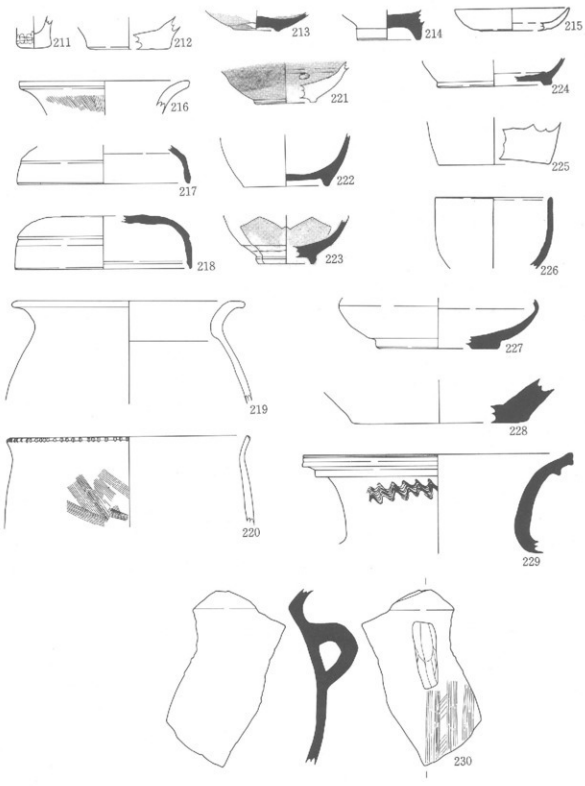
SD106（第5図）

SD101に北接し，西流する小溝である。上流部分を洪水礫層によって壊される。遺物がほとんどないため，時期は不明である。

洪水礫層（Ⅶ層）の遺物（第27図）

洪水自体は新しく，ガラス瓶や，近現代のものと思われる瓦片，陶磁器などが出土しているが，それらに混じって興味深い遺物も含まれている。これらの多くは洪水によって壊された遺構から流れ出たものであると考えることができよう。

217，218は5世紀後半頃の須恵器・坏蓋である。220は弥生時代前期の甕である。口縁部に刻目を施す。229は6世紀前半頃の須恵器甕の口縁～頸部である。頸部に波状文を施している。230は須恵器提瓶である。把手がしっかりしているため，かなり古いものの可能性もあるが，大型品であるため，その可能性を指摘するに留めておく。これらの須恵器はSD104からの流出品であろう。



第27図　1区洪水砂礫層出土遺物

第2節　2区の調査

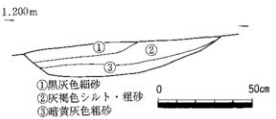
SR（第31～33図）

調査区東辺から南辺に沿って現・介良川に平行するように流れる自然河川であり，前年度までのSRから接続している。土層堆積もそれらとほとんど変わりなく，Ⅴ層の上にⅣ，Ⅲ層が重なる。Ⅲ層では一部土師器や須恵器片が出土する。遺物は前年度までの傾向とよく似ており，中心となる時期は弥生終末～古墳初頭である。なお，今回はSRより木器および高坏等をはじめとする祭祀に関連すると見られる遺物は皆無であった。

SD201（第28，31，37図）

SRに北接して西流する古墳時代の小溝である。埋土は3層に分層できるが，いずれも粗砂を含んでおり，造成後の比較的早い段階での埋没が考えられよう。

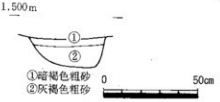
258は須恵器甕，255は須恵器壺の底部である。260は弥生中期の壺・口縁部である。端部を拡張し，波状文を施している。266は古墳前期の鉢である。外面に指頭圧，内面にハケによる調整が見られる。



第28図　SD201土層

SD202（第29，31，37図）

SD201に平行するように南流する遺物がほとんどないために時期を決定することができないが，SK201に切られるため，中世以前の所産であるといえよう。

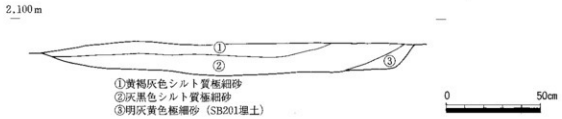


第29図　SD202土層

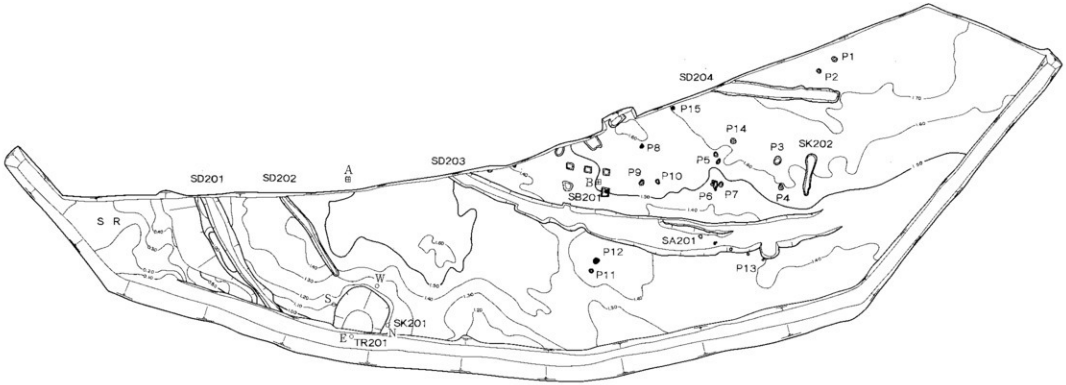
SD203（第30，31，37図）

調査区ほぼ中央を南流する幅約5mの溝である。須恵器に混じって図化し得ないものの，比較的大きい弥生土器の破片が出土している。北端部分を洪水礫層によって壊されている。

261，265，267，268，270は須恵器壺の底部である。269は須恵器甕である。いずれも古代の所産である。



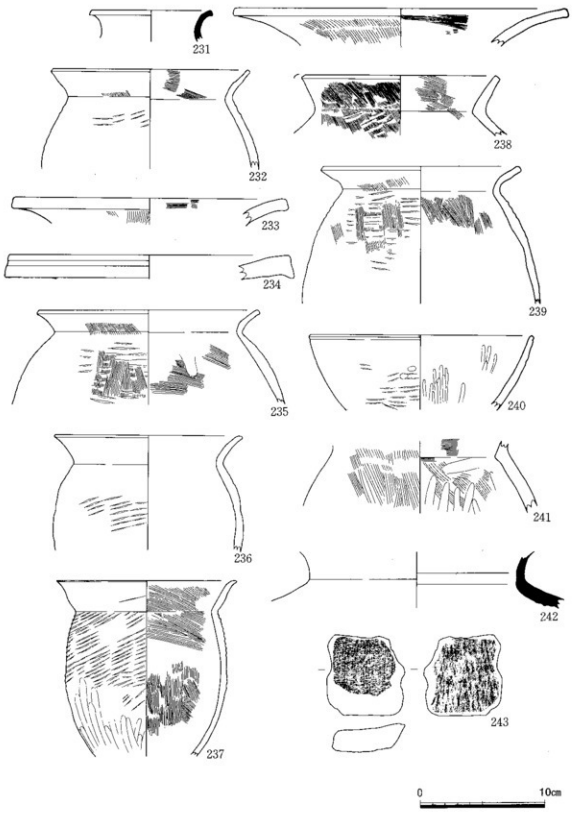
第30図　SD203土層



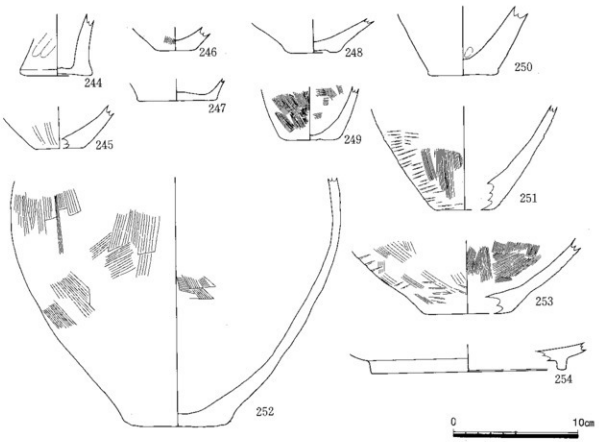
2区

ポイント名	X座標	Y座標
A	61836.000	10548.000
B	61856.000	10548.000

第31図　2区遺構配置図



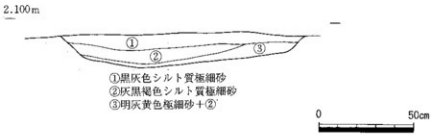
第32図　2区SR出土遺物（1）



第33図　2区SR出土遺物（2）

SD204（第31，34，37図）

SD203の西約22mの地点を南流する長さ約20m，幅約2mの溝である。南側は調査区外へと伸びる。9世紀ごろの坏蓋（259）及び布目瓦を有し，この溝の時期も9世紀ごろの所産であろう。



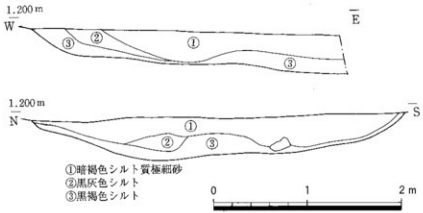
第34図　SD204土層

SB201（第31，36，37図）

南北約6m，東西約7mを測る，2×3間の掘立柱建物である。一辺約60cmの方形の柱穴を持つ。土器の再編が数点出土したのみであるため，にわかに時期決定するには至らないが，P5がSD203に切られるため，古代以前ということができる。

SK201（第31，35，37図）

SD202の東で検出した，短径約9m，長径7～11mを測る不整円形の土坑である。SD202を切っている。257は青磁碗の底部である。256は坏の底部であり，内外面に回転ナデ，底部に回転糸切りが見られる。



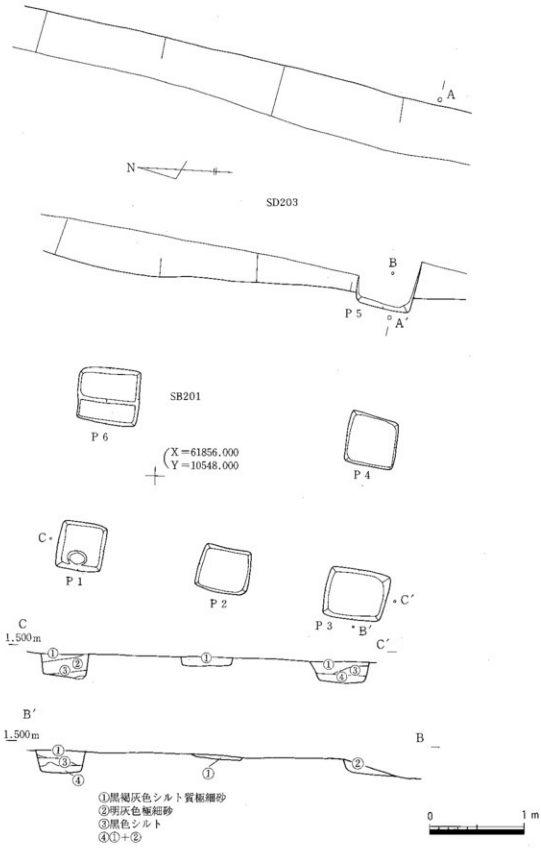
第35図　SK201土層

SK202（第31，37図）

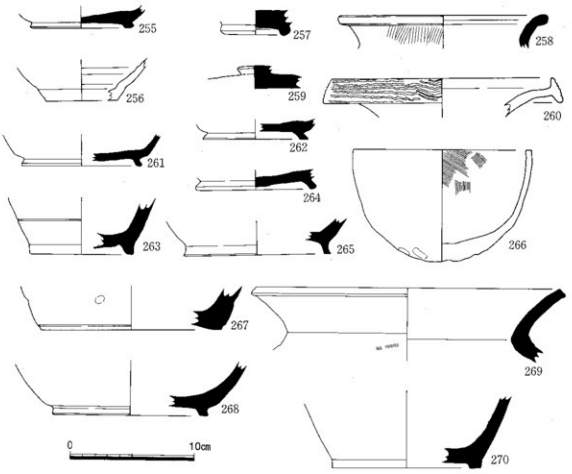
長径約6m，短径約1.5mを測る長楕円の溝状の土坑である。古代の須恵器・壺の底部（265）が1点出土したのみである。

SA201（第31図）

S－18°－Wを主軸とするほぼ一直線の柵列である。遺物は細片を含め皆無であるため，時期決定を行うことができないが，SD203に切られるため，古代以前の所産であろう。



第36図　SB201平面・土層

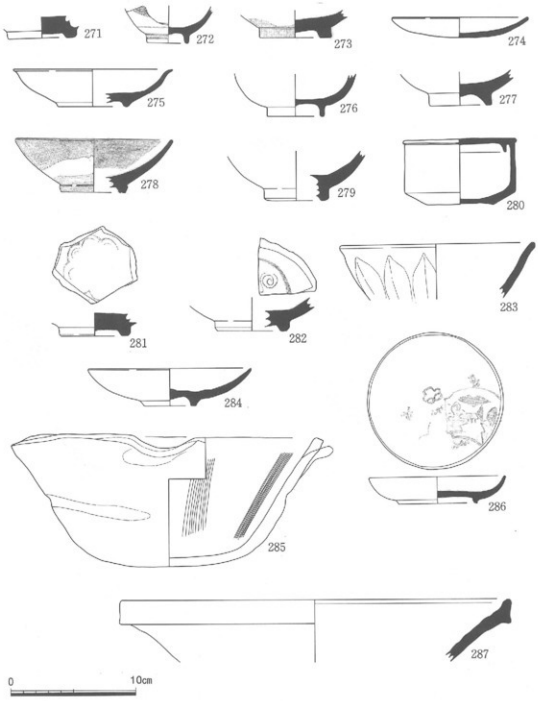


第37図　2区出土遺物

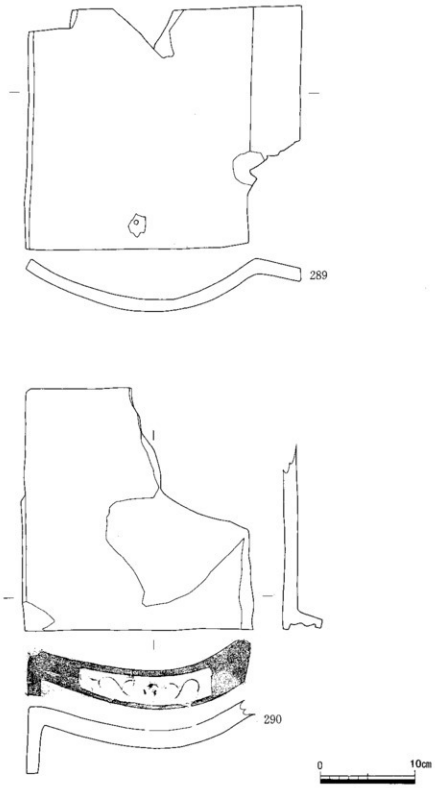
第3節 祠の調査

2区の北，96年度調査地の西に立地する祠は現在地より南東約300mの丘陵部に所在する神社で，戦後しばらくまでこの場所に所在したらしい。出土した瓦は上部施設に使用されていたものである可能性が高い。

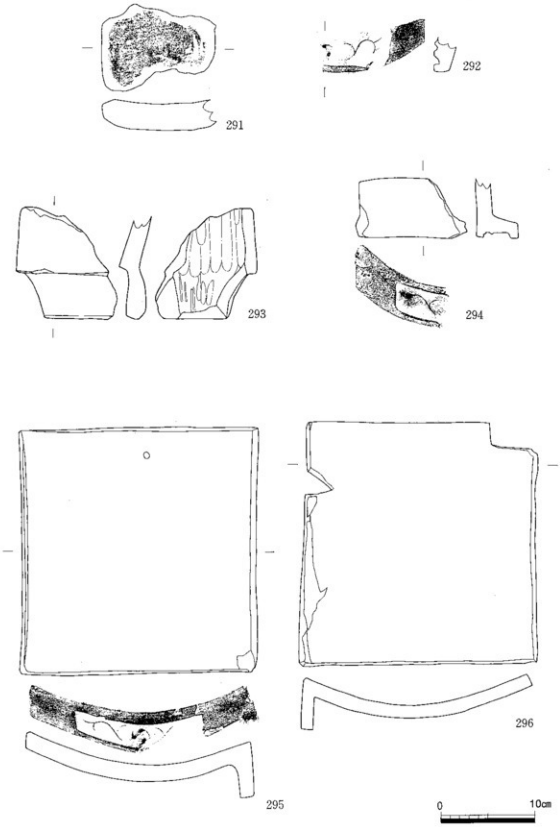
271，279，281～283は青磁碗である。283が口縁部であるほかはいずれも底部である。283が13世紀，281，282が16世紀頃と時代幅は広い。285は瓦質の擂鉢で片口を持つ。15世紀ごろの所産である。286は磁器・皿である。上部施設の名残と思われる石組みの中に置かれていたもので，お供えに使われていたものであろう。287は東播系須恵器・捏ね鉢である。289～292，294～296は桟瓦，293は丸瓦である。291は古代の布目瓦である。289，290は端部付近の中央に釘穴が見られる。また，290，292，295は巴の両側に唐草文をあしらった瓦当をもつ。


271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
0
10cm

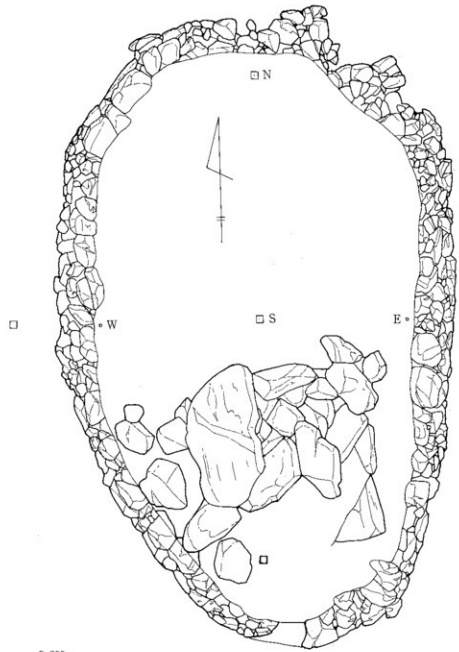
第38図　祠出土遺物（１）



第39図　銅出土遺物（２）



第40図　祠出土遺物（３）


N
W
S
E
3.200m
W
E
3.200m
N
S
①明灰褐色シルト質極細砂（現地表）
②明褐色シルト質極細砂
③褐灰色シルト質極細砂
④明褐色極細砂
⑤褐色シルト質極細砂
⑥暗灰褐色シルト質極細砂
0
5m

第41図　調平面・土層

第Ⅳ章　試掘の結果（平成７年度調査）

調査の方法

- 試掘時までの買収地が２ヶ所に分かれていたため北（上流）側のⅠ区と南（下流）側のⅡ区に分けて調査を行った。
- 調査区内に６ｍ×６ｍを基本とする方形の試掘坑（テストピット＝TP），を合計で26ヶ所設定して遺構・遺物の有無の確認を行い，調査順にⅠ区TP－１～11，Ⅱ区TP－１～15とした。

Ⅰ区

現在の介良川沿い（調査区南側）と農道沿い（調査区北側）に３ヶ所ずつ，中間部分に５ヶ所の試掘坑を設定した。

ａ．介良川沿いの試掘坑（TP－１～３）について

表土層の下は暗灰色のシルト層で，この層から弥生終末期から古墳時代を中心とする土器が出土した。特にTP－３では同一個体と思われる土器がまとまって出土した。また，この層の下部には植物遺体が多くみられた。更に下層は青灰色の砂層・礫層となり，湧水が激しかったので調査を打ち切った。旧河川流路の中心に近い部分とみられる。

ｂ．中間部分の試掘坑について

TP－４はａと状況が似通っていたが遺物は特に出土していない。

TP－５・８は表土層下の暗灰色シルト層が薄く，下には水成堆積と思われる明青（緑）灰細砂の層が70～80cmほど堆積していた。その下はａと同様に青灰色の砂礫層で湧水がみられた。旧河川流路でも河岸に近い部分とみられる。

TP－７・９は流路の岸辺にあたる部分と思われ，試掘坑の北半では表土層の下はすぐに礫層が現れた（TP－７はそのため試掘坑全体を当初より３ｍ程度南に移動して調査を行った）。南半部の堆積はTP－５・８とほぼ同様だが，表土と細砂層の間に明青灰色のシルト層が入る。更にそのシルト層の上部には所々に黒色の砂層が入り込み，それに混じって弥生前期の土器が一定量出土した。出土状況から見て，出水時の流れ込みであろうと思われる。なお，この２ヶ所の試掘坑でⅠ区の出土量の半ばを越える。

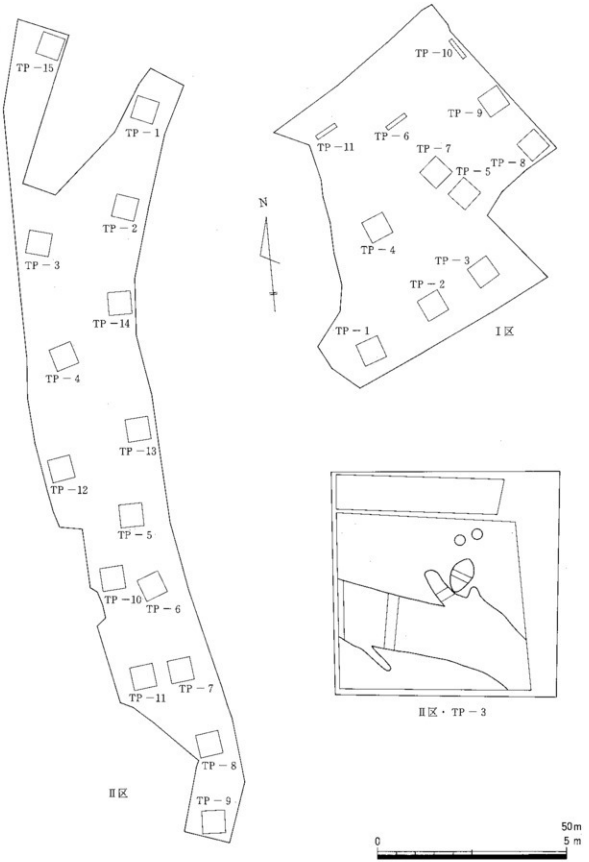
ｃ．農道沿いの試掘坑（TP－６・10・11）について

いずれも表土（礫が多く混入）の下はすぐ礫砂層で旧河川の河原部分と思われる。１ｍ程度掘り下げたが，状況は同じであり，また幅を広げても状況が変わるとも思えなかったので，掘削は１ｍ×６ｍのトレンチでとどめている。

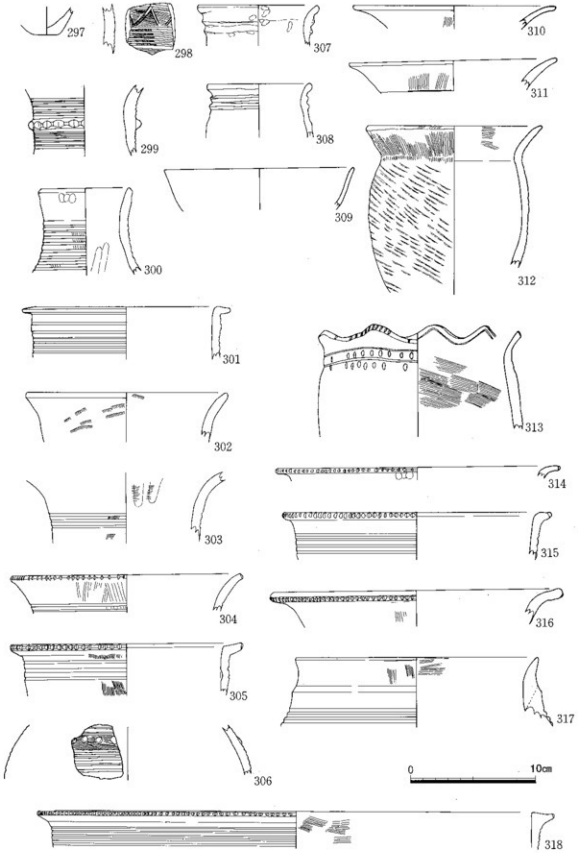
ｄ．Ⅰ区まとめ

一定量の遺物は出土し，特に弥生前期土器にはみるべきものも多く成果は上がったが，遺構については自然河川は検出できたものの，人工物と断定できるものは検出できなかった。なおTP－８～10は平成10年度（本年度）調査のⅡ区に，その他の試掘坑は平成９年度調査のⅢ区に含まれている。

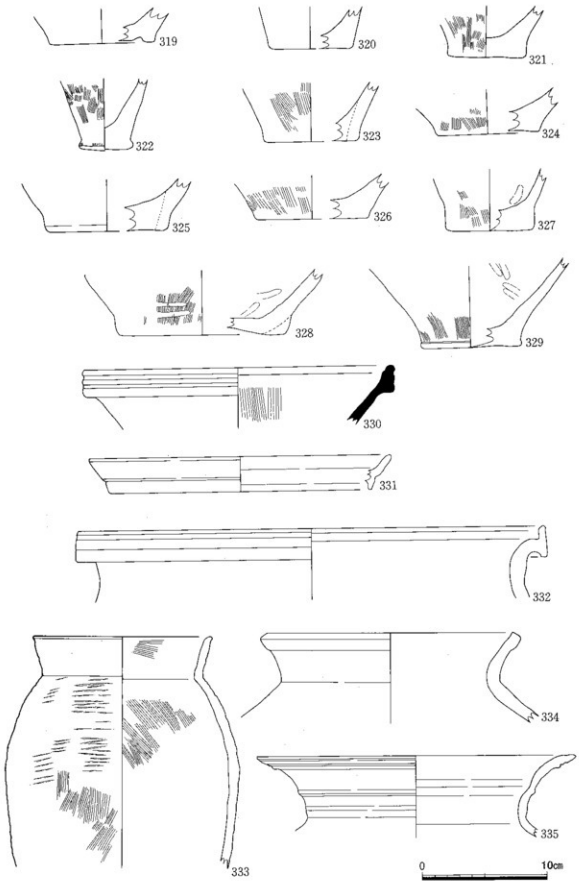
第42図　試掘・調査区配置図



第43図　試掘坑配置図，Ⅱ区・TP－3平面図



第44図　Ⅰ区出土遺物（1）



第45図　Ⅰ区出土遺物（２），332，334，335はⅡ区

Ⅱ区

現在の介良川沿い（調査区東側）に９ヶ所，調査区西側に６ヶ所の試掘坑を設定した。

ａ．介良川沿いの試掘坑について（TP－１・２・５～９・13・14）

堆積状況から見て，全てが旧河川流路内に含まれ，遺物の出土状況もⅠ区の介良川沿いの試掘坑とおおむね同様であったが，TP－５では植物遺体の多く残存する層において，木製堅杵片を確認した。また，TP－７・８では表土の下の暗褐色粘礫層及び礫砂層（礫は円礫）から，他の試掘坑と比較して非常に多量の土器が出土した。出土量からみて単なる流れ込みであるとは考えにくく，土器捨て場或いは何らかの遺構の可能性も考えたが，湧水も多く断定できるほどの確認はできなかった。なお，この２ヶ所の試掘坑でⅡ区の出土量の半ばを越える。

ｂ．調査区西側の試掘坑について（TP－３・４・10～12・15）

TP－３では地表下約30㎝で，溝状の遺構及びピットを検出した。このうち溝状遺構にはサブトレンチを３ヶ所に入れて確認した。検出面からの深さは約20㎝を測る。遺物は中世のものと思われる土師質土器細片が若干出土している。

TP－10・11は旧河川流路の肩部分にあたり（西側が岸），試掘坑東半部は河床部分と同様の堆積であった。

他の試掘坑は散発的に遺物は出土したものの，明確な遺構は確認できなかった。

ｃ．Ⅱ区まとめ

やはり弥生時代後期から古墳時代にかけてを中心時期とする土器が多く出土した。またⅠ区では殆ど出土しなかった須恵器が一定量出土している反面，弥生前期土器は殆どみられなかった。なおTP－１・15は平成９年度調査のⅠ・Ⅳ区に，TP－９は10年度調査のⅢ区に，その他の試掘坑は全て平成８年度調査の範囲に含まれている。

図化した出土遺物について

・Ⅰ区

TP－２　330は備前焼擂鉢である。間隔の密な擂目を有する。

TP－３　312，333は弥生土器甕で外面はタタキ，312は内外面とも口縁部にハケ，333は内面の体部上半と外面の体部下半にハケが残る。297は底部片である。

TP－７　313は弥生土器には珍しい波状口縁の甕である。外面頸部には二条の沈線の間と下に刺突文・口縁端部に刻み目・内面の口縁に沿って沈線を配する。内面にはハケが残る。327は底部片で外面にハケ，331は中世の張り付け高台を持つ土師質の皿である。

TP－９　309は須恵器杯身の口縁部片である。

以下は全て弥生土器で，298，306は壺の体部片で多条の平行沈線で区画された間に298では二条一組の沈線の綾杉文，306では円形浮文を配し，全体にハケが残る。

307，308は頸部に二条の貼付凸帯を巡らす口縁部片である。同一個体の可能性もある。310，311は大きく開く口縁部片でハケ調整，299は押圧凸帯を添付しその上下に六条ずつの平行沈線を巡らす

頸部片である。303や細頸の300，無頸の317などは頸部付近に平行沈線を巡らす。

甕は口縁端部に刻み目のあるものが多く，また壺と同様平行の沈線を巡らすものも多い。口縁で逆L字状に大きく屈曲するもの（301，305，318），なだらかに開くもの（302，304，316），その中間の形態のもの（314，315）がある。

底部片はハケが明瞭に残らないもの（320，325）もあるが，概ねは明瞭である（319，321～324，326，328，329）。319は底部を貼付した部分が輪高台状に残る。322は急角度で立ち上がる。328は横方向のミガキが残る。

・Ⅱ区

TP－2　345の高坏は杯部が脚部よりやや小さく，また脚部内面の凹みは浅い。表面の剝落はあるものの90％以上残存している。

TP－7　338の須恵器甕はやや扁平で頸部が小さくすぼまる。

340は支脚で内外面とも特に調整がされず，指頭圧痕がそのまま残る。346は外面ハケ，337，349は外面タタキの底部片である。以下は口縁部片で，355，356は摩耗のためはっきりしないが，内外面ともハケ調整がみられ，同一個体の可能性もある。351は頸部で「く」の字状に屈曲し，短い口縁で端部は丸く仕上げる。353，354は外面縦方向のハケの後，端部付近は横方向に仕上げる。

TP－8　355は須恵器甕で頸部と口縁にかけて一条ずつ凸帯を巡らし，頸部の凸帯の内面付近で器厚がやや薄い。

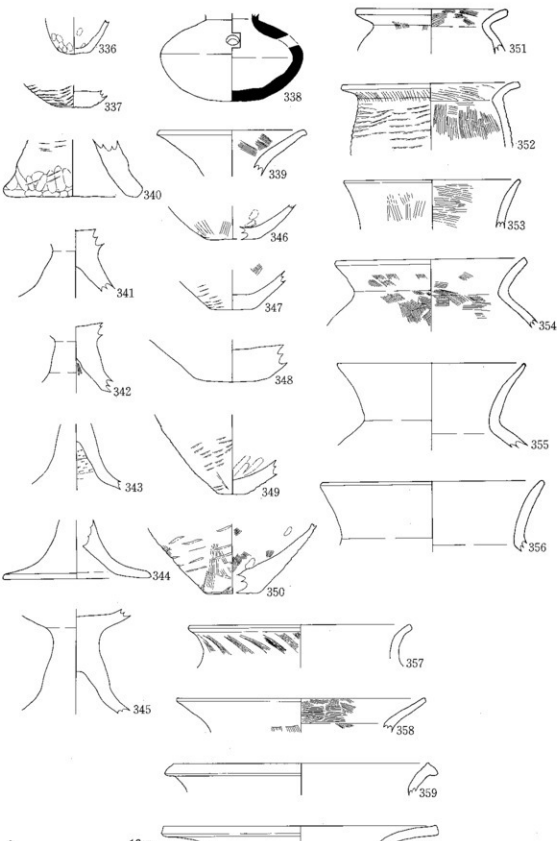
336は小型手捏ね土器の底部片である。341，343は脚が短く大きく開く高坏である。348は大型土器の底部で内外面ともナデ仕上げ，350は外面タタキの底部片である。339は内面ハケで頸部がすぼまり，357は外面に斜め方向の掻き目，358は端部を平らに仕上げ内面ハケ外面頸部ハケ，359は端部を平らに仕上げ外側に肥厚させた口縁部片である。

TP－10　342，344は脚部の短い高坏である。360は大きく開く壺の口縁で，口唇は面取り，凹線状に少し凹む。347は底部片でタタキ成形である。

TP－13　332は常滑焼甕口縁部で大きく屈曲し端部を肥厚させる。口唇はハケ状の器具で仕上げる。352は弥生土器口縁部でタタキの後体部内面はハケで仕上げる。

TP－14　334は口縁部を肥厚させ，肩部にカキ目の入った須恵器甕口縁部片である。

・出土土器の説明中特に示しているもの以外は弥生土器（一部古墳時代の土師器を含む）である。


336
337
338
339
340
346
341
347
342
348
343
349
344
350
345
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
0
10cm

第46図　Ⅱ区出土遺物

遺　物　観　察　表

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm) 口径	底形	器高	成形・文様・調整 (外面／内面)	胎土	焼成	色調 (外面／内面)	備考
1	1区	SR	Ⅳ層	弥生中期	壺	口縁部	1／6	13.6	―	(2.5)	貼付口縁・ハケ／ハケ	やや粗・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	黄灰白色／黄灰白色	
2	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	広口壺	口縁部	1／4	17.4	―	(3.8)	ナデ・ハケ／ナデ・ハケ	密・2㎜以下のチャートを少量含む	良好	黄灰白色／明灰褐色	
3	1区	SR	Ⅳ層	弥生前期	壺	口縁部	1／6	19.6	―	(5.7)	ハケのちミガキ／ハケ	粗・2㎜以下のチャートを多く含む	良	暗褐色／灰褐色	
4	1区	SR	Ⅳ層	弥生中期	壺	口縁～頸部	1／2	16.8	―	(8.1)	貼付口縁・ハケ／ハケ・ナデ	やや密・2㎜以下の長石・砂岩を含む	良好	灰褐色／赤褐色	
5	1区	SR	Ⅳ層	弥生中期	壺	口縁部	1／8	20.2	―	(8.2)	貼付口縁・ナデ・ハケ・列点文／ハケ	粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	やや不良	灰褐色／暗灰褐色・赤褐色	
6	1区	SR	Ⅳ層	弥生中期初	壺	口縁部	1／8	22.8	―	(2.4)	ヨコナデ・刻目文・指頭圧・ハケ／ハケ	やや粗・1㎜以下の頁岩を多く含む	良	暗褐灰色／暗褐灰色	
7	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	甕			21.8	―	(9.3)	ハケ／ハケ	やや密・3㎜以下のチャート・頁岩・砂岩を少量含む	良	黒褐色・明黄灰褐色／灰白色	
8	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	壺	口縁部	1／6	16.3		(10.0)	ハケ／ハケ	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良	桃白色／桃灰色	
9	1区	SR	Ⅲ層	弥生中期	壺	口縁～頸部	1／4	13.4	―	(5.9)	貼付口縁／ハケ	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	良	明灰白色／灰色	
10	1区	SR		弥生中期	壺	口縁部	1／4	15.6		(7.4)	刻目文・ハケ／不明	やや密・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	灰褐色／灰褐色	
11	1区	SR	Ⅳ層	弥生中期	壺	口縁部	1／4	18.2	―	(3.3)	貼付口縁・指頭圧／不明	やや粗・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	やや不良	赤黄白色／褐灰色	
12	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	無頸壺	口縁部	1／8	13.8	―	(3.5)	ナデ／ナデ	やや密・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	灰褐色／灰褐色	
13	1区	SR	Ⅶ層	弥生後期	壺	口縁部	1／6	10.2	―	(3.3)	ハケ／ハケ	密・3㎜以下の長石チャート・砂岩を多く含む	良好	赤灰色／灰褐色	
14	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	壺	口縁部	1／4	15.2	―	(4.4)	不明／不明	やや密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	赤橙色／灰褐色・黒色	
15	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	短頸壺	口縁～体部	1／4	12.4	―	(9.8)	タタキ／ハケ	やや密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良	黄桃色／灰黄色	
16	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	広口壺	口縁部	1／4	22.0	―	(5.8)	ナデ・ハケ／沈線文・ハケ	やや密・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を少量含む	良	淡桃色／黄褐色	
17	1区	SR	Ⅳ層	弥生中期	壺	口縁～体部	1／2	11.8	―	(13.9)	ハケ／ハケ	密・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	灰褐色／灰褐色・灰黒色	
18	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭		底部	底部のみ完存	―	4.2	(2.7)	タタキ／不明	やや粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	やや良	灰褐色／灰褐色	
19	1区	SR	Ⅳ層			底部		―	4.5	(3.1)	ハケ／指頭圧	やや密・1㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良	灰褐色／灰白色	
20	1区	SR				底部	1／2	―	4.6	(6.0)	不明／不明	やや密・1㎜以下のチャート・頁岩・砂岩を含む	やや良	灰白色／黒灰色	
21	1区	SR				底部	底部のみ完存	―	3.7	(5.4)	ナデ／	粗・1㎜以下の長石・砂岩を含む	良	褐色・赤褐色／褐灰色	
22	1区	SR	Ⅳ層			底部	1／4	―	6.2	(4.7)	ハケ／不明	やや粗・1㎜以下の砂岩を含む	良好	灰黄色／暗灰褐色	底面にハケ
23	1区	SR				底部	底部のみ完存	―	4.8	(3.5)	ハケ／	粗・1㎜以下の長石・チャートを多く含む	良	暗灰褐色／黄灰白色	
24	1区	SR	Ⅳ層			底部	底部のみ完存	―	―	(5.3)	ハケ／不明	粗・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良	灰黄白色／黄灰白色	底面に内面から穿孔(未完通)
25	1区	SR	Ⅳ層			底部	底部のみ完存	―	3.6	(7.3)	タタキ・ナデ／ハケ	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	やや不良	灰白色／黒灰色	
26	1区	SR	Ⅲ層			底部	1／4	―	8.6	(6.0)	ハケ／	やや密・3㎜以下の長石・砂岩を多く含む	良好	褐灰色／褐色	内面に炭化物付着
27	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	鉢		口縁部のみ欠損	12.3	―	(6.7)	タタキ／ハケ	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良好	灰褐色／赤灰褐色	
28	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	鉢	口縁部	1／8	18.2	―	(4.1)	不明／不明	密	良好	黄白色／桃白色	
29	1区	SR	Ⅳ層			底部	1／2	―	11.2	(6.2)	ナデ・ハケ／不明	粗・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	やや良	灰褐色／灰黒色	
30	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	甕	底部	1／5	―	4.6	(8.6)	タタキ／ハケ・ナデ	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	黄灰色／明褐色	
31	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭		底部	底部のみ完存	―	3.3	(6.6)	タタキのちハケ／ナデ	やや密・1㎜以下のチャート含む	良	黄灰褐色／暗褐色	
32	1区	SR	Ⅳ層			底部	1／2	―	9.8	(5.8)	ハケのちナデ／ナデ	粗・2㎜以下の長石・頁岩・砂岩を多く含む	良好	黒褐色／黄灰褐色	
33	1区	SR	Ⅳ層	弥生前期	甕	口縁～体部	1／3	18.2		(18.9)	ヘラ描き沈線文・ハケ／ナデ	やや密・2㎜以下の砂岩を含む	良好	灰褐色／褐灰色	
34	1区	SR		弥生終末～古墳初頭	甕	体部下半～底部	完存		7.2	(23.4)	タタキのちハケ／ハケ・ナデ	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	良	灰褐色／褐色	
35	1区	SR	Ⅳ層		手捏ね土器		ほぼ完形	5.1		(5.2)	指頭圧／指頭圧・ナデ	密・2㎜以下の長石を少量含む		灰褐色／黄灰褐色	
36	1区	SR			甕	ほぼ完形		5.5	―	9.1	ハケのちナデ・指頭圧／ナデ	やや粗・1㎜以下の長石・砂岩を含む	良	褐灰色・黒褐色／灰褐色	
37	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	甕	口縁～体部	1／4	10.6	―	(5.3)	ナデ・ハケ／ナデ・ハケ	やや密・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	黄灰色／灰褐色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	残存部位	残存率	法量(cm)			成形・文様・調整	胎　土	焼成	色　調	備　考
								口径	底形	器高	(外面/内面)			(外面/内面)	
38	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1／4	12.6	—	(3.0)	ハケ／ハケ	やや粗・3㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	やや不良	黒褐色／灰褐色	
39	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁部	1／4	13.6	—	(4.3)	ハケ／ハケ	密・3㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良	黒色／灰褐色	
40	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁～体部	1／4	10.6	—	(6.4)	ナデ・ハケ／ナデ・ハケ	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	良	灰黄白色／灰白色	
41	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1／6	17.4	—	(1.8)	ナデ・ハケ／ナデ・ハケ	密・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	黄灰色／明灰褐色	
42	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1／5	14.0	—	(4.4)	不明／ハケ・ナデ・指頭圧	密・3㎜以下の長石・砂岩を含む	やや良	褐灰色／明褐灰色	
43	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1／4	13.0	—	(7.7)	タタキ／ハケ・ナデ	やや密・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	黒褐色／赤褐色	
44	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1／6	—	—	(7.6)	タタキ／ハケ	やや密・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良	灰褐色／灰褐色・赤褐色	
45	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁～体部	1／4	17.4	—	(6.9)	タタキ／不明	やや密・1㎜以下の長石・真砂・砂岩を多く含む	良	黄褐色／灰褐色	
46	1区	SR	Ⅳ層	古墳後期	壺	口縁部	1／8	19.8	—	(6.4)	不明／不明	やや粗・2㎜以下のカラチャート・砂岩を含む	良好	赤褐色／褐色	
47	1区	SR	Ⅵ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁～体部	1／6	21.2	—	(8.1)	ナデ・タタキ／ハケ	やや密・2㎜以下の砂岩を少量含む	良	黒褐色／赤褐色	内部に接合痕みられる
48	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁～体部	1／4	12.8	—	(7.5)	タタキのちハケ／パケ	やや粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	やや不良	黒色／灰褐色	
49	1区	SR		弥生終末～古墳初頭	壺	体部	1／4	—	—	(6.8)	タタキ／ハケ・ナデ	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	良	黒褐色・橙灰色／灰褐色	
50	1区	SR	Ⅳ層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1／6	15.6	—	(4.5)	タタキ／不明	密・1㎜以下のチャートを量む	良好	暗褐色・明灰褐色／黄灰白色	
51	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁～体部	1／6	12.2	—	(8.4)	ナデ・不明／ハケ	やや粗・1㎜以下の長石・砂岩を含む	良	黒褐色／赤褐色	内面に接合痕残る
52	1区	SR	Ⅵ層	弥生前期	壺	口縁部	1／8	22.6	—	(7.7)	刷毛文・ナデ／ナデ	粗・1㎜以下の長石・チャートを多く含む	やや良	淡橙色／明灰褐色	
53	1区	SR		弥生後期	壺	口縁～頸部	1／3	16.4	—	(5.1)	ハケ／不明	やや密・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	黄灰白色／黄灰白色	
54	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁部	1／2	13.6	—	(4.8)	ハケ／不明	密・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	橙色／赤橙色	
55	1区	SR		古墳前期	壺	口縁部	1／4	13.2	—	(4.9)	ナデ・ハケ／ナデ	密・1㎜以下の長石・砂岩を含む	良好	暗褐色・黄灰褐色／明赤褐色	搬入品？
56	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	壺	口縁部	1／6	11.6	—	(5.1)	ハケ／不明	密・3㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良	灰褐色／灰褐色	
57	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	壺	口縁部	1／6	7.0	—	(4.8)	ハケ／不明	粗・1㎜以下の長石・砂岩を多く含む	やや不良	褐灰色／褐色	
58	1区	SR	Ⅵ層	古墳前期	壺	口縁部	1／4	17	—	(4.5)	ハケ・ナデ／ハケ・ナデ	粗・1㎜以下の長石を少量含む	良	灰褐色／灰褐色	
59	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	壺	頸部	1／6	11.8	—	(7.2)	沈線文／ナデ	密・1㎜以下の砂岩を含む	やや良	黄灰褐色／明赤灰褐色	
60	1区	SR	Ⅳ層	弥生後期	壺	口縁～頸部	1／3	16.6	—	(7.6)	ナデ／ナデ・ハケ・指頭圧	粗・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	黄灰色／黄褐色	内部に接合痕
61	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	二重口縁壺	口縁～頸部	1／5	17.2	—	(7.2)	ナデ・ハケ／ナデ	やや密・1㎜以下の長石・チャート・雲母・砂岩を含む	良	黄灰色／明黄灰色	
62	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁部	1／3	15.4	—	(5.7)	ナデ・ハケ／ナデ	やや密・1㎜以下の長石・砂岩を含む	良	黄灰色／黄灰色	
63	1区	SR		弥生後期	壺	口縁部	1／3	16.4	—	(8.2)	沈線文／不明	やや密・1㎜以下の長石・チャートを少量含む	良好	灰褐色／黄灰褐色	
64	1区	SR		古墳前期	壺	口縁～頸部	1／2	17.6	—	(12.7)	ナデ・ハケ・沈線2条／ナデ・ケズリ	やや密・1㎜以下の長石・チャートを含む	良好	灰褐色／黄灰褐色	
65	1区	SR	Ⅳ層		二重口縁壺	口縁部	1／4	15.4		(4.0)	ナデ／不明	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良	赤褐色／赤褐色	
66	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁～頸部	1／2	13.2	—	(6.4)	ナデ・ハケのちナデ・ハケ／ナデ・ハケ	密・1㎜以下のチャートを含む	良好	明灰褐色／明灰褐色	
67	1区	SR	Ⅳ層		二重口縁壺	頸部	1／4			(7.0)	ナデ／ナデ	密・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	やや良	灰黄色／灰褐色	
68	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁～頸部	口縁～頸部のみ完存	14.4	—	(6.5)	竹管文・ハケ・ナデ／竹管文・ナデ	密・2㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良好	灰褐色／赤褐色	
69	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺	口縁部	1／4	20.7	—	(8.2)	半裁竹管文・竹管文／	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	良好	赤褐色／赤褐色	
70	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	小型丸底壺	口縁部のみ欠損		7.4	—	6.2	指頭圧／ナデ	粗・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	灰褐色／赤褐色	
71	1区	SR		古墳前期	小型丸底壺	口縁～底部	1／2	8.6	—	(8.6)	ナデ／不明	やや粗・1㎜以下の砂岩を含む	良好	灰褐色／暗灰色	
72	1区	SR		古墳前期	丸底壺	口縁～底部	1／2	10.6	—	(8.0)	不明／不明	密・1㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良好	赤灰褐色／赤褐色	
73	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	小型丸底壺	口縁部のみ欠損		—	—	(5.5)	指頭圧・ハケ／ハケ・ナデ	やや密・2㎜以下の長石・チャート・砂粒を多く含む	良好	灰褐色／明灰色	
74	1区	SR	Ⅳ層	古墳前期	壺		口縁部のみ欠損	7.2	—	10.1	ナデ・ハケ／ナデ・ヘラ・ケズリ	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を少量含む	良好	明灰褐色／赤褐色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm) 口径	底形	器高	成形・文様・調整 (外面/内面)	胎土	焼成	色調 (外面/内面)	備考
75	1区	SR	IV層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁～底部	1／2	8.9	—	11.3	ナデ・タタキのちナデ／ナデ	やや粗・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良	黄灰色／黄灰褐色	
76	1区	SR		古墳前期	小型丸底壺	口縁部のみ欠損		8.8	—	(10.5)	ナデ／ナデ	やや粗・1㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良好	暗灰色／褐色	
77	1区	SR			高坏	脚部	脚部ほぼ完存	—	13.0	(6.6)	不明／ハケ	密	良好	黄灰白色／明灰褐色	
78	1区	SR	IV層	古墳前期	鉢	胴部	1／3	—	18.8	(13.5)	不明／ナデ・ハケ	粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	やや良	暗褐灰色／赤褐色	
129	1区	SD108	IV層	弥生前期～古段階	甕	口縁部	1／3	26.2	—	(10.0)	刻目文／体部外面に段	やや粗・1㎜以下の砂岩を少量含む	良好	黒褐色／灰褐色	
121	1区	SD103	下層	弥生前期末～中期初	壺			9.2	—	(6.3)	沈線文／不明	やや粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	やや良	黄灰褐色／明褐色	
122	1区	SD103			壺	口縁部	1／4	13.2	—	(4.3)	ヘラ描沈線文／ナデ	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	明灰褐色／明灰色	
123	1区	SD103	砂層	弥生前期末	壺	口縁部	1／8	16.2	—	(4.8)	指頭圧・ハケ後ナデ・ヘラ描沈線文／ハケ	やや密／3㎜以下の長石・砂岩を含む	良	明褐色／黄灰白色	
124	1区	SD103			壺	頸部	1／12	—	—	(5.9)	ヘラ描沈線文・粗／不明	粗・1㎜以下の長石・チャート・頁岩・砂岩を多く含む	良好	褐色／灰褐色	
125	1区	SD103	下層	弥生前期				—	—	(6.3)	ヘラ描沈線文・指圧凸帯文／不明	粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	褐色／褐灰色	
126	1区	SD103		弥生前期	壺	体部	1／12	—	—	(4.0)	指圧凸帯文・刻目凸帯文・ヘラ描沈線文・ハケ／不明	粗・1㎜以下の頁岩・砂岩を多く含む	やや良	灰褐色／灰褐色	
127	1区	SD103		弥生前期	甕	口縁部	1／8	13.1	—	(2.0)	刻目文・ナデ／不明	やや粗／2㎜以下の砂岩を少量含む	良好	褐色／明褐色	
128	1区	SD103	砂層	弥生前期	甕	口縁部	1／10	17.8	—	(3.3)	刻目文・沈線文／ハケ	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	暗灰褐色／灰褐色	
129	1区	SD105	下層	弥生前期	甕	口縁部	1／20	19.6	—	(4.8)	刻目文・ヘラ描沈線文・ハケ／ナデ	やや粗・1㎜以下のチャート・雲母・砂岩を含む	良好	灰褐色／黄灰褐色	
130	1区	SD105		弥生前期	甕	口縁～体部	1／8	19.6	—	(10.1)	ハケ／ハケ	やや粗／2㎜以下の砂岩を含む	良好	赤褐色／褐色	
131	1区	SD103	下層		甕	口縁部	1／12	23.6	—	(3.3)	刻目文・ハケ・ナデ／ナデ	やや粗・1㎜以下のチャート・雲母・頁岩・砂岩を多く含む	良好	黄灰色／灰褐色	
132	1区	SD103	下層	弥生前期	甕	口縁部	1／6	24.8		(7.7)	刻目文・沈線文・ハケ／ハケ	粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	良好	灰褐色／明褐色	
133	1区	SD103	砂層	弥生前期	甕	口縁部	1／20	23.6	—	(9.2)	刻目文・ハケ／ハケ	粗・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良	灰褐色／灰褐色・黒褐色	
134	1区	SD103		弥生前期	甕	口縁部	1／8	24.4	—	(7.0)	刻目文・ヘラ描沈線文・ハケ・ナデ／ナデ	やや粗・1㎜以下のチャート・頁岩・砂岩を多く含む	良好	灰褐色／灰褐色	
135	1区	SD103		弥生前期	壺	口縁～体部	1／8	31.6	—	(14.6)	指頭圧・ヘラ描沈線文・ハケ／ハケ	やや粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	明赤褐色／明灰褐色	
136	1区	SD105	下層		鉢(蓋)？	口縁～底部	1／2	8.3	—	(4.7)	指頭圧・ナデ／ナデ	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	褐色／褐色	
137	1区	SD105	上層			底部	底部のみ完存	—	6.8	(4.0)	ハケ／	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良好	灰褐色／黒灰色	
138	1区	SD105	最下層			底部		—	6.4	(3.9)	ハケ／不明	粗・1㎜以下の長石・砂岩を多く含む	やや不良	灰褐色／褐褐色	
139	1区	SD105				底部	1／4	—	7.8	(3.4)	不明／不明	粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良	灰褐色／褐褐色	
140	1区	SD103	下層			底部	1／2	—	6.4	(4.9)	指頭圧・ハケ／不明	粗・2㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良好	灰褐色／褐色	
141	1区	SD105				底部	1／3	—	8.2	(6.9)	不明／指頭圧	粗／2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	明灰褐色／明褐色	
142	1区	SD103				底部	1／2	—	7.4	(6.0)	ハケ／	粗・2㎜以下の長石・チャート・頁岩・砂岩を多く含む	やや良	黄灰褐色／褐灰色	
143	1区	SD103				底部	1／4	—	10.8	(5.4)	ハケ／ヨコナデ	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	やや不良	灰褐色／暗褐色	
144	1区	SD103	下層			底部	1／4	—	8.6	(6.2)	ハケ／指頭圧	粗・1㎜以下のチャートを少量含む	やや不良	褐灰色／褐灰色	
145	1区	SD103	中層			底部	底部のみ完存	—	5.2	(3.9)	ハケ／ナデ	やや粗・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良	灰褐色／黒褐色	底部に穿孔
146	1区	SD103				底部	1／16	—	8.8	(3.4)	ハケ／不明	粗／3㎜以下の砂岩を多く含む	良好	灰褐色／褐色	
147	1区	SD103	下層			底部	1／3	—	6.4	(5.7)	不明／不明	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	やや良	灰褐色／灰褐色	
148	1区	SD103				底部	1／3	—	8.0	(5.3)	不明／不明	粗・2㎜以下の砂岩を含む	良	赤灰褐色／暗褐灰色	
149	1区	SD103	上層			底部	1／2	—	8.4	(4.4)	ハケ／不明	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	灰褐色／灰褐色	
150	1区	SD103				底部	1／4	—	9.6	(3.9)	ハケ／ナデ	粗・1㎜以下の長石・チャート・頁岩・砂岩を多く含む	良	明灰褐色／褐色	
151	1区	SD103		弥生前期		底部	完存	—	8.6	(4.2)	ヘラ描沈線文・ハケ／	やや粗／1㎜以下の長石・砂岩を含む	良好	暗赤褐色／褐色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm) 口径	器高	成形・文様・調整 (外面/内面)	胎土	焼成	色調 (外面/内面)	備考
152	1区	SD103				底部	1/4	−	7.8	(4.1)	ハケ/不明	粗/1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	灰黄白色/明灰褐色	
153	1区	SD103				底部	完存	−	8.6	(3.4)	/ナデ	やや粗/1㎜以下の長石・チャートを多く含む	良	灰褐色/明黄灰褐色	
154	1区	SD103				底部	1/4	−	7.2	(4.8)	ハケ/不明	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	やや不良	灰褐色/灰褐色	
155	1区	SD103				底部	1/8	−	7.4	(5.2)	不明/不明	やや密/2㎜以下の長石・砂岩を多く含む	やや良	黄灰白色/灰色	
156	1区	SD103	最下層			底部	1/4	−	8.4	(4.8)	ハケ/不明	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	やや不良	灰褐色/褐色	
157	1区	SD103				底部	1/3	−	7.6	(4.6)	ハケ/指頭圧	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	やや不良	灰褐色/褐色	
158	1区	SD103				底部	底部のみ完存	−	8.4	(4.6)	ハケ/不明	粗・2㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	やや良	灰褐色/褐灰色	
159	1区	SD103				底部	1/4	−	9.6	(4.7)	不明/ナデ	粗・3㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良好	灰褐色/灰褐色	
160	1区	SD103				底部	底部のみ完存	−	10.0	(4.0)	ヘラミガキ/ナデ・指頭圧	粗・1㎜以下の長石・チャート・貫岩・砂岩を多く含む	良好	黒褐色/褐色	
161	1区	SD103				底部	底部のみ完存	−	12.1	(3.5)	ハケ/ナデ	やや粗・3㎜以下の長石・チャート・貫岩・砂岩を多く含む	良好	灰褐色/暗褐灰色	
162	1区	SD104	上層	弥生前期		脚部				(2.7)	扇目凸帯文・ハケ/不明	密・2㎜以下の長石・チャートを少量含む	良好	黄橙色/淡黄橙色	
163	1区	SD104	下層	弥生中期	壺	口縁部	1/4	9.6	−	(5.7)	ナデ/不明	密・1㎜以下の長石を少量含む	良好	明灰褐色/明灰褐色	
164	1区	SD104	上層	古墳前期	壺	口縁〜頸部	1/3	12.8		(6.0)	ナデ/ナデ	密・2㎜以下の砂岩を含む	良好	明褐色/明赤褐色	
165	1区	SD104	上層	弥生後期	広口壺	口縁部	1/8	14.5	−	(4.2)	不明/不明	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を少量含む	良好	灰褐色/赤灰褐色	
166	1区	SD104	上層	古墳前期	壺		1/2	9.6		(10.3)	ナデ/ナデ	密	良好	灰褐色/灰褐色	
167	1区	SD104	上層	古墳前期	壺	口縁部	1/4	10.7	−	(5.6)	不明/不明	やや粗	良好	黄灰白色/明灰褐色	
168	1区	SD104	上層	弥生中期	壺	口縁部	1/8				貼付口縁・指頭圧/不明	やや密・2㎜以下の砂岩を多く含む	やや不良	黄灰褐色/黄白色	
169	1区		上層	古墳前期	広口壺	口縁部	1/3	16.6		(7.7)	ナデ/指頭圧・ナデ	密・1㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	褐灰色/明灰褐色	
170	1区	SD104	上層	古墳前期	甕	口縁部	1/3	17.4		(6.0)	ハケ/指頭圧・ナデ	やや密・1㎜以下の長石を含む	良好	明灰褐色/明灰褐色	
171	1区	SD104		弥生終末〜古墳初頭	甕	口縁部	1/4	14.8		(6.5)	タタキ/ハケ	密・2㎜以下のチャートを少量含む	良好	黒褐色/灰黄褐色	
172	1区	SD104	下層	弥生後期末	壺	口縁〜頸部	1/8	18.0	−	(5.7)	ハケ・ヘラ描沈線文/不明	密・1㎜以下の長石・砂岩を多く含む	良好	赤橙色/明赤橙色	
173	1区	SD104	上層	弥生中期	壺	頸部	完存	9.4		(11.4)	ハケ・波状文/不明	やや密・1㎜以下のチャートを多く含む	良好	灰褐色/明褐色	
174	1区	SD104	中層	弥生終末〜古墳初頭	甕	口縁部	1/4	16.8		(8.4)	ハケ・タタキ/ハケ・ナデ	密・2㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良好	黄灰褐色/黄灰褐色	
175	1区	SD104	中層	弥生中期	壺			22.8		(1.6)	波状文・ハケ/ハケ・ハケ	やや粗・1㎜以下のチャートを多く含む	良好	明赤灰色/明赤灰色	
176	1区	SD104		弥生後期	壺	口縁部	1/2	14.6		(9.4)	ハケ/ハケ	粗・1㎜以下の砂岩を多く含む	良	灰褐色/灰褐色	
177	1区	SD104	上層		手捏ね土器	1/3程完形		4.8		(4.0)	指頭圧/指頭圧・ナデ	やや粗・1㎜以下の長石を少量含む	良好	黄灰褐色/明赤褐色	
178	1区	SD104			弥生土器・甕					(3.7)	密		良好	桃白色/桃白色	
179	1区	SD104	上層	5世紀末	坏蓋		1/2	13.8		(4.3)	回転ナデ/回転ナデ	密・1㎜以下の長石を少量含む	良好	褐灰色/黄灰色	
180	1区	SD104	上層	古墳前期	小型丸底壺		1/2			(3.1)	不明/不明	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	明灰褐色/黄灰褐色	
181	1区	SD104	上層		脚部	口縁部・裾部欠損		−	−	(4.5)	指頭圧/不明	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	やや良	黄灰白色、黄灰白色	
182	1区	SD104	上層		高坏	脚部	1/8			(7.5)	ハケ・沈線文/	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	褐色/赤褐灰色	
183	1区	SD104			高坏	脚部	2/3		11.4	(6.4)	ナデ/ナデ	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良	赤褐色/灰褐色	
184	1区	SD104			高坏	脚部	2/3	−	14.2	(8.0)	不明/不明	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	赤褐色/黄灰褐色	
185	1区	SD104	上層		高坏	脚部			13.5	(8.4)	不明/不明	やや密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	灰褐色/赤色	
186	1区	SD104	上層		高坏	脚部	1/2程完形		14.4	(9.3)	不明/不明	密・1㎜以下の砂岩を少量含む	良好	灰褐色/赤褐色	
187	1区	SD104		古墳前期	高坏	脚部	1/2程完形			(10.0)	不明/不明	密・1㎜以下のチャートを含む	良好	赤褐色/赤灰白色	
188	1区	SD104	上層		高坏	脚部	2/3		12	(6.4)	ナデ/ハケ・ナデ	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	黄灰白色/黄灰白色	
189	1区	SD104	上層		高坏	裾部	1/2程完形		13	(3.4)	不明/不明	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	赤褐色/灰褐色	
190	1区	SD104	上層		頸壺器・壺	口縁部	1/3	28.2		(13.3)	回転ナデ・タタキ/	やや密	良好	明黄灰色/灰色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm)			成形・文様・調整	胎土	焼成	色調	備考
								口径	底形	器高	(外面/内面)			(外面/内面)	
191	1区	SD104	上層	古墳前期	高坏	坏部	1/3	17.6	−	(3.8)	不明/不明	やや密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を少量含む	良好	赤白色/灰白色	
192	1区	SD104	上層	古墳前期	高坏	坏部	1/4	16.2	−	(4.8)	不明/不明	密・1㎜以下の長石・チャート・石英を含む	良好	明赤褐色/明赤灰褐色	
193	1区	SD104	上層	古墳前期	高坏	坏部	1/4	17.2	−	(3.8)	ナデ/不明	やや密・2㎜以下の長石を少量含む	良好	赤褐色/赤褐色	
194	1区	SD104	上層	古墳前期	高坏	坏部	1/3	19.5	−	(4.7)	不明/不明	密・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	良好	赤褐色/赤褐色	
195	1区	SD104	上層	古墳前期	高坏	坏部	3/4	18		(6.7)	不明/不明	密・1㎜以下の長石を少量含む	良好	赤褐色/赤褐色	
196	1区	SD104	上層	8世紀	壺			25.2	−	(6.3)	回転ナデ/回転ナデ	密・1㎜以下の長石を多く含む	良好	暗灰緑色/暗灰赤色	
197	1区	SD104	上層	弥生終末〜古墳初頭		底部	底部のみ完存	−	2.6	(2.6)	タタキ/不明	やや密・1㎜以下のチャートを含む	良好	赤褐色/赤褐色	
198	1区	SD104				底部	2/3	−	3.6	(4.1)	不明/不明	やや密	良	黄灰色/黄灰白色	
199	1区	SD104	上層	弥生終末〜古墳初頭		底部	底部のみ完存	−	4.2	(5.0)	タタキ/ナデ	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を含む	やや不良	明灰褐色/黒灰色	
200	1区	SD104	上層			底部	底部のみ完存	−	5.8	(3.0)	不明/ナデ	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	灰褐色/黒灰色	
201	1区	SD104	上層			底部	1/2	−	8.0	(3.8)	ハケ/不明	粗・1㎜以下の長石・雲母・砂岩を多く含む	良	明灰褐色/赤灰白色	
202	1区	SD104				底部	底部のみ完存	−	3.3	(4.3)	ハケ/不明	やや密・1㎜以下の長石・チャートを含む	良好		
203	1区	SD104	上層			底部	1/4	−	5.9	(3.9)	不明/不明	やや密・2㎜以下の砂岩を多く含む	良	灰褐色/灰色	
204	1区	SD104	下層			底部	底部のみ完存	−	8.0	(5.1)	ハケ/ナデ	粗・1㎜以下の長石・雲母を多く含む	良	灰褐色/赤灰色	
205	1区	SD104	下層			底部	1/2	−	−	(5.7)	ハケ/不明	粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	褐灰色/黄灰白色	
206	1区	SD104	上層			底部	底部のみ完存	−	7.4	(5.3)	ハケ/不明	粗・1㎜以下のチャート・雲母・砂岩を多く含む	良好	灰黄色/灰黄白色	
207	1区	SD104	上層			底部	1/2	−	4.6	(6.3)	ハケ/ナデ	粗・1㎜以下の砂岩を少量含む	やや良	明灰褐色/褐灰色	
208	1区	SD104	上層		弥生土器	底部	完存			〈14〉	不明/ハケ	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良	灰褐色/灰褐色	
209	1区	SD104	上層		弥生土器	底部	完存		4.8	(5.9)	ハケ/ナデ	粗・2㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良	桃白色/明灰色	
210	1区	SD104	上層		弥生土器	底部	完存		1.3	(9.7)	不明/不明	粗・1㎜以下の砂岩を少量含む	良	灰褐色/灰色	
211	1区		洪水砂礫層	弥生時代		底部	底部のみ完存	−	2.8	(2.6)	沈線・指頭圧/	やや粗・1㎜以下の頁岩・砂岩・チャートを少量含む	やや良	黄褐灰色/黄灰褐色	
212	1区		洪水砂礫層			底部	1/3	−	6.6	(2.6)	不明/不明	粗・2㎜以下のチャート・頁岩・砂岩を含む	良好	灰褐色/黒灰褐色	
213	1区		洪水砂礫層			底部	1/2	−	3.8	(1.6)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗	良好	抹茶色・褐色/抹茶色	瀬津?
214	1区		洪水砂礫層		坏	底部	底部のみ完存	−	4.8	(2.3)		密	良好	黄灰褐色/黄灰白色	
215	1区		洪水砂礫層		灯明皿		1/3	9.2	−	1.8	回転ナデ/回転ナデ	やや密	良好	赤褐色/赤褐色	
216	1区		洪水砂礫層	弥生前期		口縁部	1/4	13.6	−	(2.7)	ナデ・ハケ/不明	やや密・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良好	黄灰褐色/桃灰色	
217	1区		洪水砂礫層	5世紀末	坏蓋	口縁部	1/10	13.8	−	(3.1)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	暗青灰色/明灰色	
218	1区			5世紀末	坏蓋	蓋	1/3	14.4		(4.3)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	青灰色/青灰色	
219	1区		洪水砂礫層			口縁部	1/3	18.5	−	(8.6)	不明/不明	粗・1㎜以下の長石・砂岩を含む	不良	黒褐色/黒褐色	
220	1区		洪水砂礫層	弥生前期		口縁部	1/12	19.0	−	(7.3)	刻目文・ナデ・ハケ/不明	やや密・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良好	灰褐色/褐灰白色	
221	1区		洪水砂礫層			底部	1/3	−	4.8	(3.2)	回転ナデ/	やや粗	良好	灰白色・赤褐色/緑灰白色	内面に砂目積痕
222	1区		洪水砂礫層			底部	1/3	−	6.8	(4.2)	回転ナデ/回転ナデ	密・1㎜以下の長石を多く含む	良好	暗赤褐色/褐灰色	
223	1区		洪水砂礫層			底部	1/2	−	4.4	(3.7)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗	良好	灰白色・暗赤褐色/灰黄白色	
224	1区		洪水砂礫層		坏	底部	1/3	−	9.2	(2.1)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗・1㎜以下の長石を多く含む	良好	灰青色・灰色/灰青色	
225	1区		洪水砂礫層			底部	底部のみ完存	−	9.0	(3.7)	不明/不明	粗・1㎜以下のチャート・砂岩を多く含む	良	灰黄色/灰色	
226	1区		洪水砂礫層		坏	口縁部	1/12	9.4	−	(5.7)		やや密	良好	緑灰白色/緑灰白色	
227	1区		洪水砂礫層			底部	1/4	−	9.8	(4.1)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	黒褐色/灰色・黄灰色	
228	1区		洪水砂礫層			底部	1/6	−	14.2	(3.5)		やや密	良好	灰赤色/赤灰白色	備前焼?
229	1区		洪水砂礫層		須恵器・壺	口縁〜頸部	1/4	21.6	−	(13.0)	波状文・回転ナデ/回転ナデ	やや粗/1㎜以下の長石を少量含む	良好	青灰色/明灰色	
230	1区		洪水砂礫層					−	−	(14.1)	ハケ・ナデ/ナデ・タタキ	やや粗・1㎜以下の長石を多く含む	良好	明灰色/青灰色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm)			成形・文様・調整(外面/内面)	胎土	焼成	色調(外面/内面)	備考
								口径	底形	器高					
231	2区	SR	上層		壺	口縁部	1/6	9.6	--	(2.5)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗	良好	灰色/灰色	
232	2区	SR	下層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1/4	15.6	—	(7.9)	ハケ・タタキ/ハケ	やや密・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良	黄灰褐色/灰赤褐色	
233	2区	SR	堆層	弥生後期	壺	口縁部	1/8	21.8	—	(2.1)	ナデ・ハケ/ナデ・ハケ	やや密・3㎜以下のチャート・緑色・頁岩を含む	良	明灰白色/明黄灰白色	
234	2区	SR	上層	弥生中期	壺	口縁部	1/8	21.2	—	(1.9)	凹線文/不明	密・1㎜以下の長石・チャートを含む	やや不良	暗灰褐色/暗褐灰色	
235	2区	SR		弥生終末～古墳前期	壺	口縁部	1/6	—	14.2	(7.6)	タタキのちハケ/ハケ・ナデ	やや密・3㎜以下の砂岩を含む	良好	黒褐色/灰褐色	
236	2区	SR	下層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1/3	14.8		(8.6)	ナデ・タタキ/不明	やや密・1㎜以下の長石・チャートを多く含む	良	黒褐色/灰褐色	
237	2区	SR		弥生終末～古墳初頭	壺	口縁～体部	1/2	14.4	—	(14.1)	タタキのちナデ・ナデ/ハケ・ナデ	やや粗	良好	黒灰色・灰褐色/褐灰色	
238	2区	SR		弥生終末～古墳初頭	広口壺	口縁部	1/6	15.2	—	(4.8)	タタキのちハケ/ハケ	密・3㎜以下の長石・チャート・頁岩・砂岩を少量含む	良好	赤灰褐色/灰褐色	
239	2区	SR		弥生後終～古墳初頭	壺	口縁～体部	1/3	15.6		(11.0)	ナデ・タタキのちハケ/ハケ	密・2㎜以下の砂岩を少量含む	良好	黒褐色/明褐色	
240	2区	SR	下層	弥生終末～古墳初頭	鉢	口縁部	1/3	17.8	—	(6.0)	擬頭圧・タタキ/ハケ・ミガキ	密・1㎜以下の長石・チャートを少量含む	良好	黄白色/明黄灰色	
241	2区	SR	堆層	古墳前期	脚部	脚～体部	1/6	—	—	(5.8)	ハケ/ハケ・ナデ	粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を少量含む	良好	灰褐色/灰褐色	
242	2区	SD203			壺	脚部	1/8	—	—	(4.5)	列点文・扇転ナデ/回転ナデ・閉心円文	密	良好	灰色/明黄灰色	
244	2区	SR	上層			底部	底部ほぼ完存	—	—	(4.9)	ナデ/ナデ	密	良好	灰褐色/黄灰白色	
245	2区	SR	中層			底部	1/3	—	3.8	(3.4)	ハケ/不明	粗・1㎜以下の砂岩を多く含む	やや不良	明灰褐色/緑褐色	
246	2区	SR	堆層			底部	底部のみ完存	—	3.2	(1.9)	ハケ/	やや粗・1㎜以下の長石・チャートを多く含む	良好	明灰褐色/褐灰白色	
247	2区	SR	堆層			底部	1/2	—	6.4	(1.7)	不明/不明	粗・1㎜以下の砂岩を少量含む	やや良	浅灰色/褐灰色	
248	2区	SR				底部	底部のみ完存	—	3.6	(2.7)	不明/不明	やや密・1㎜以下の砂岩を含む	良好	赤褐色/赤灰褐色	
249	2区	SR	中層			底部	1/4	—	4.0	(4.3)	ハケ/ハケ	やや粗・1㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	やや不良	灰褐色/黒灰色	
250	2区	SR	中層			底部	1/3	—	5.4	(5.6)	不明/不明	やや粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を少量含む	良	明灰褐色/褐灰色	
251	2区	SR		弥生終末～古墳初頭	壺	底部	1/3	—	4.6	(6.3)	タタキのちハケ/	やや粗・1㎜以下のチャート・砂岩を含む	良	灰褐色/灰黒色	
252	2区	SR		弥生後期		底部	完存		8.2	(19.8)	ハケ/ハケ	密・2㎜以下のチャート・砂岩を含む	良	明灰色/灰色	
253	2区	SR		弥生終末～古墳前期		底部	1/2	—	7.0	(5.9)	タタキのちハケ/ハケ	やや粗・5㎜以下の長石・頁石・砂岩を含む	やや不良	黄灰白色/褐灰色	
254	2区	SR	上層	中世	皿			—	15.6	(2.2)	不明/不明	密	良好	灰褐色/灰褐色	
255	2区	SD201			壺	底部	底部のみ完存	—	8.3	(1.8)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	灰色・黄灰白色/明灰褐色	
256	2区	SK201			坏	底部	1/6	—	5.8	(3.3)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	明赤黄白色/明褐色	底部回転糸切り
257	2区	SK201			青磁・碗	底部	2/3	—	4.9	(1.95)		やや密	良好	オリーブ/オリーブ	
258	2区	SD201			壺	口縁部	1/6	16.8	—	(2.6)	回転ナデ・ハケ/回転ナデ	やや密	良好	黄灰色/明黄灰色	
259	2区	SD204			須恵器・坏蓋	頭部	ほぼ完形			(1.9)	回転ナデ/不明	やや粗	やや不良	明灰色/明灰色	頂部に把手
260	2区	SD201		弥生中期	壺	口縁部	1/4	17.6	—	(3.1)	波状文・ナデ/ハケ	密・3㎜以下の頁岩・砂岩を少量含む	良	桃白色/灰褐色	
261	2区	SD203			坏	底部	1/4	—	9.6	(2.8)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	明黄灰色/灰色	
262	2区	SK203			坏	底部	1/3	—	8.4	(1.5)	回転ナデ/回転ナデ	粗・1㎜以下の長石を含む	良好	青灰色/青灰色	
263	2区	SD203			坏	底部	1/3	—	8.0	(4.5)	沈線・回転ナデ/回転ナデ	粗・1㎜以下の長石を含む	良好	青灰色/灰青色	
264	2区	表採		8世紀末		底部	1/4	—	9.6	(1.6)	回転ナデ/回転ナデ・ケズリ	粗・0.5以下の長石を多く含む	良好	青灰色/青灰色	
265	2区	SD203			坏	底部	1/6	—	11.8	(2.7)	回転ナデ/回転ナデ	密・1㎜以下の長石・雲母を含む	良好	明紫灰白色/灰色	
266	2区	SD201		古墳前期	鉢	口縁～底部	2/3	14.2	—	(9.0)	指頭圧/ハケ	やや密・2㎜以下のチャートを少量含む	良好	灰褐色/黄灰褐色	
267	2区	SD203				底部	1/4	—	14.6	(3.5)	指頭圧・回転ナデ/回転ナデ	やや粗	良好	青灰色/褐灰色	外面・断面に焼成時の亀裂
268	2区	SD203			坏	底部	1/3	—	12.4	(4.4)	回転ナデ/回転ナデ	密	良好	暗灰色/青灰色	
269	2区	SD203			壺	口縁部	1/4	24.4	—	(5.9)	回転ナデ・ハケ/回転ナデ	密	良好	明紫灰色/灰色	
270	2区	SD203				底部	1/8	—	11.9	(5.9)	回転ナデ/回転ナデ	やや密・1㎜以下の長石を少量含む	良好	明紫灰色/灰白色	
271		瓶			青磁・碗	底部	完存		5.5	(1.6)		やや密	良好	緑灰色・明黄灰褐色/緑灰色	
272		瓶			染付・坏	底部	3/4		3.4	(3.0)		粗	良好	明青白色/明青白色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm) 口径	底形	器高	成形・文様・調整 (外面/内面)	胎土	焼成	色調 (外面/内面)	備考
273		銅		中・近世	両替	底部	1／3		5.6	(1.8)		やや粗	良好	暗灰褐色・灰白色／暗褐灰色	
274		銅			小壺	ほぼ完形		11.0	—	1.6	回転ナデ／回転ナデ	密	良好	褐色／暗赤色	
275		銅			染付・皿			13.0	5.8	(3.0)		やや粗	良好	白色／明青白色	
276		銅			陶磁器・坏	底部	1／3	4.6		(3.0)		やや粗	良好	黄灰白色／黄灰白色	
277		銅			陶磁器	低脚	完存		5	(3.2)		粗	良好	灰白色／灰白色	
278		銅		近代	陶磁器		1／3	12.6	5.2	4.3	—	粗	良好	黄白色・灰褐色／青緑色・灰白色	
279		銅		15C	青磁	底部	1／4	—	5.2	(5.2)	—	やや密	良好	緑灰色／緑灰色	
280		銅			容器	壺	ほぼ完形	9.1	—	1.1		密	良好	緑黄灰色／灰黄白	
280		銅			容器	身	ほぼ完形	8.8	—	4.8		密	良好	黄灰白色・黄白色／黄色	内面に砂目痕跡
281		銅			碗	底部	2／3		5.8	(1.8)	花紋	密	良好	青緑灰色／緑灰白色	
282		銅		15C	青磁・碗	底部	1／4		5.6	(2.7)	蓮弁文／	やや粗	良好	オリーブ灰／オリーブ灰	
283		銅		13C	青磁	碗		15.8		(4.5)	蓮弁文／	やや密	良好	明緑白色／明緑灰色	
284		銅			皿	口縁～底部	1／3	13.2	4.0	3.0	—	密	良好	明緑灰色／明緑灰色	磁器
285		銅		15C	すり鉢		1／2	25.0	—	10.7	ナデ／8条1束のすり目	やや密	良好	明灰色／明灰色	
286		銅			皿	完形品	—	10.9	6.4	2.1	—	—	良好	白色／明青白色	磁器
287		銅			こね鉢	口縁部	1／12	30.8	—	(5.0)	回転ナデ／回転ナデ	粗・1㎜以下の長石を含む	良好	灰色／灰色	東播系
397	I区	TP3				底部	底部のみ完存	—	2.1	(2.2)	不明／不明	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	明灰褐色／褐色	
298	I区	TP9		弥生前期末				—	—	—	ハケ・ヘラ描沈線文・擬似沈文／不明	密・2㎜以下の砂岩を多く含む	良好	明灰黄色／明灰白色	
299	I区	TP9	旧層	弥生前期末	壺	頸部	1／4	—	—	(6.7)	ヘラ描沈線文・押圧凸帯文／不明	やや粗・1㎜以下の長石を少量含む	良好	灰褐色／赤褐色	
300	I区	TP9	旧層	弥生中期	甕頸壺	口縁部	1／6	7.0	—	(7.0)	指頭圧・ハケ・間り目・凸帯・ナデ／ナデ	やや密・2㎜以下の砂岩・チャート・長石を少量含む	良好	淡黄灰褐色／明灰褐色	
301	I区	TP9	旧層	弥生前期末～中期初	甕	口縁部	1／10	16.6	—	(4.3)	櫛描沈線文	やや密・1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	やや良	褐色／明褐色	
302	I区	TP9	旧層		甕	口縁部	1／12	16.0	—	(4.0)	ハケ／ハケ	粗／2㎜以下の長石・砂岩をやや多く含む	良好	明褐色／明褐色	
303	I区	TP9	旧層	弥生中期	壺	頸部	1／6	—	—	(5.6)	櫛描沈線文・ハケ／ナデ・ハケ	やや密・3㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	やや良	明赤褐色／明赤白色	
304	I区	TP1	旧層	弥生前期	壺	口縁部	1／16	18.4	—	(3.0)	刻目文・ハケ・沈線／不明	粗・1㎜以下の長石・砂岩を含む	良好	灰褐色／明灰褐色	
305	I区	TP9	旧層	弥生前期末	甕	口縁部	1／8	18.6	—	(4.2)	刻目文・指頭圧のちハケ・ヘラ描沈線文・ハケ／ナデ	やや粗・1㎜以下の長石・砂岩を含む	やや不良	暗褐色／黄灰褐色	
306	I区	TP9	旧層	弥生中期	壺	体部	1／12	—	—	(4.1)	櫛描沈線文・ハケ・円形浮文／	やや密・1㎜以下の長石・砂岩を含む	やや不良	灰褐色／黒灰色	
307	I区	TP9	旧層	弥生前期	壺	口縁～頸部	1／4	9.6	—	(3.3)	粘土突帯・指頭圧／指頭圧	粗／1㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	褐色／褐色	
308	I区	TP9	旧層	弥生前期	壺	口縁部	1／4	8.2	—	(4.3)	凸帯／	やや粗・1㎜以下の長石・雲母を含む	やや良	暗褐色／暗褐色	
309	I区	TP9	旧層	9世紀頃	坏	口縁部	1／8	15.2	—	(3.3)	回転ナデ／回転ナデ	やや粗・1㎜以下の長石を含む	良好	明灰色／灰色	
310	I区	TP9	旧層	古墳前期	広口壺	口縁部	1／10	16.2	—	(1.9)	ハケのちナデ／ナデ	やや密・2㎜以下のチャート・黒粒を少量含む	良好	明灰褐色／灰褐色	
311	I区	TP9	旧層	弥生前期	壺	口縁部	1／20	16.6	—	(2.5)	ナデ・ハケ・沈線文／ナデ	密／2㎜以下の長石・砂岩を含む	良好	明褐色／灰白色	
312	I区	TP3	旧層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁～体部	1／3	13.8		(13.4)	ハケ・タタキ／ハケ	やや密・1㎜以下の砂岩を少量含む	やや良	黒褐色／黄灰褐色	
313	I区	TP7	旧層・斜礫	弥生前期～中段階	甕	口縁部	1／2	15.8		(9.1)	刻目文・沈線文・刺突文／沈線文・ハケ	やや粗・1㎜以下の長石・チャートを少量含む	良好	灰褐色／灰褐色	
314	I区	TP9	旧層	弥生前期末	甕	口縁部	1／24	22.8	—	(1.0)	刻目文・指頭圧・ナデ／ナデ	粗／2㎜以下の砂岩を少量含む	良好	明褐色／灰褐色	
315	I区	TP9	旧層	弥生前期末	甕	口縁部	1／8	11.4	—	(3.8)	刻目文・ヘラ描沈線文／不明	やや密／3㎜以下の砂岩を含む	やや良	灰褐色／灰白色	
316	I区	TP9	旧層	弥生前期	甕	口縁部	1／16	26.6	—	(2.8)	刻目文・ハケ／不明	粗・1㎜以下の長石・黄砂・砂岩を多く含む	良好	明赤灰褐色／灰褐色	
317	I区	TP9	旧層		無頸壺	口縁部	1／12	19.4	—	(5.7)	ハケ・ヘラ描沈線文	粗・1㎜以下の長石・黄砂・砂岩を含む	良好	赤灰白色／明灰褐色	
318	I区	TP9	旧層	弥生後期末	甕	口縁部	1／16	41.2	—	(2.9)	刻目文・ヘラ描沈線文／オコクデ・ハケ	やや粗／1㎜以下の長石を少量含む	良好	褐色／灰褐色	
319	I区	TP9	旧層			底部	1／6	—	8.4	(2.8)	不明／不明	粗・3㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好		
320	I区	TP9	旧層			底部	1／2	—	6.8	(3.4)	不明／不明	粗・3㎜以下の長石・チャート・雲母を多く含む	良好	褐色／黄褐色	

図番	調査区	遺構名	層位	時代	器種	現存部位	現存率	法量(cm) 口径	底形	器高	成形・文様・調整 (外面/内面)	胎　土	焼成	色　調 (外面/内面)	備　考
321	I区	TP9	II層			底部	底部のみ完存	－	6.3	(4.2)	ハケ/	粗・3㎜以下の長石・チャート・雲母・砂岩を多く含む	良好	黄赤褐色/赤褐色	
322	I区	TP9	II層			底部	底部のみ完存	－	4.2	(5.8)	ハケ/不明	やや粗・2㎜以下の長石・チャート・砂岩・黄岩・雲母を多く含む	良好	灰褐色/明褐色	
323	II区	TP9	II層	弥生時代		底部	1/4	－	7.2	(4.7)	ハケ/不明	粗/3㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	明褐色/明赤褐色	胴部に接合痕
324	I区	TP9	II層			底部	1/2	－	8.2	(3.6)	ハケ/不明	粗/3㎜以下の長石・砂岩を多く含む	良好	灰褐色/赤灰褐色	
325	II区	TP9	II層	弥生時代		底部	1/4	－	9.2	(4.2)	不明/不明	粗/3㎜以下の長石・チャートを多く含む	良好	灰褐色/明灰褐色	
326	I区	TP9	II層	弥生時代		底部	1/3	－	8.8	(3.6)	ハケ/不明	やや密/3㎜以下の長石・砂岩を多く含む	良好	灰褐色/明灰褐色	
327	II区	TP7	II層			底部	1/2	－	6.6	(5.0)	ハケ/指頭圧	やや粗/2㎜以下の長石・砂岩を多く含む	やや不良	黄灰色/灰黄色	
328	I区	TP9	II層	弥生時代		底部	1/4	－	13.2	(5.2)	ハケのちナデ/ナデ	やや粗・2㎜以下の長石・砂岩を多く含む	やや良	赤褐色/褐灰色	
329	I区	TP9	II層			底部	1/4	－	8.0	(7.0)	ハケ/ナデ	やや粗・1㎜以下の長石・チャート・砂岩を多く含む	良好	明赤褐色/灰褐色	
330	I区	TP2	II層	18世紀	擂鉢	口縁部	1/20	24.8	－	(4.9)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗	良好	暗赤色/暗赤灰色	9条以上一束のすり目・備前焼
331	II区	TP7	II層	古代	皿	口縁～底部	1/12	24.0	10.8	(2.8)	回転ナデ/回転ナデ	やや密	良好	灰褐色/灰褐色	
332	II区	TP13	II層		壺	口縁部	1/16	37.4	－	(5.8)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗	良好	赤灰色/暗赤褐色	
333		TP3	II層					14.4		(18.5)					
334	II区	TP14	II層	9世紀	壺	口縁～頸部	1/6	19.6	－	(7.3)	回転ナデ・タタキ/回転ナデ・同心円文	やや粗	良好	褐灰色/青灰色	
335	II区	TP8	II層	9世紀	須恵器・壺	口縁～頸部	1/4	15.6	－	(6.6)	回転ナデ/回転ナデ	やや粗/1㎜以下の長石を多く含む	良好	灰青色/灰色	
336	II区	TP8	II層	古墳時期	手捏ね土器	底部	完存	－	－	(3.0)	指頭圧/指頭圧	密/2㎜以下の砂岩を少量含む	良好	明赤灰褐色/明褐色	
337	II区	TP7	II層	弥生終末～古墳初頭		底部	底部のみ完存	－	－	(1.8)	タタキ/	やや密・2㎜以下の長石・チャート・砂岩を含む	良	灰褐色/明灰色	
338	II区	TP7	II層	6世紀	甑	体～底部	完存	－	－	(7.0)	回転ナデ/回転ナデ	やや密/1㎜以下の長石を含む	良好	明灰色/灰色	内外面に自然釉
339	II区	TP8	II層		壺	口縁部	1/4	11.8		(5.7)	不明/ハケ	密・1㎜以下の砂岩を少量含む		黄褐色/黄赤褐色	
340	II区	TP7	II層	弥生終末～古墳初頭	支脚			－	11.2	(4.6)	タタキ・指頭圧/	やや密・3㎜以下の長石	やや不良	赤褐色/赤褐色	
341	II区	TP8	II層		高坏	脚部	脚部のみ欠損	－	－	(5.3)	不明/不明	やや密/1㎜以下の長石・砂岩をごく少量含む	良好	淡赤橙色/灰白色	
342	II区	TP10	IV層		高坏	脚部	脚部のみ欠損	－	－	(5.7)	ナデ/ハケ・ナデ	密	良好	灰褐色/明灰褐色	
343	II区	TP8	II層		高坏	脚部		－	－	(5.3)	不明/ヘラケズリ	密・2㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	赤褐色/赤褐色	
344	II区	TP10	II層		高坏	裾部	1/4	－	11.8	(4.7)	不明/不明	密	良好	橙色/赤橙色	
345	II区	TP2	II層		高坏	脚	裾部のみ欠損	－	－	(8.4)	不明/不明	密・1㎜以下のチャート・砂岩を少量含む	良好	明灰褐色/明灰褐色	
346	II区	TP7	II層			底部	1/4	－	－	(2.7)	ハケ/指頭圧	やや密/4㎜以下の長石・砂岩を少量含む	やや不良	黄灰褐色/黒灰色	
347	II区	TP10	II層	弥生後期～古墳初頭	壺	底部	1/2	－	3.6	(3.2)	磨滅	やや粗/2㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	赤橙色/明赤褐色	
348	II区	TP8	II層			底部	ほぼ完存	－	－	(3.4)	不明/不明	やや粗/3㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良	灰褐色/赤黄褐色	
349	II区	TP7	II層	弥生終末～古墳初頭	壺	底部	底部のみ完存	－	2.3	(6.4)	タタキ/ナデ	密・1㎜以下のチャートを少量含む	良好	灰褐色/灰褐色	
350	II区	TP8	II層	弥生終末～古墳初頭	壺	底部	1/2	－	4.4	(5.6)	タタキのちハケ/指頭圧のちハケ	やや密/2㎜以下の長石・砂岩を少量含む	やや良	明褐色/明赤灰褐色	
351	II区	TP13	V層	弥生終末～古墳初頭	壺	口縁部	1/4	14.2	－	(5.6)	ハケ・タタキ/ハケ	やや密/1㎜以下の砂岩を少量含む	良好	黒色/明灰褐色	
352	II区	TP7	II層	古墳前期	広口壺	口縁部	1/6	7.8	－	(4.0)	ハケのちナデ/ハケ	密・1㎜以下の砂岩を含む	やや良	明灰褐色/明灰褐色	
353	II区	TP7	II層	古墳前期	広口壺	口縁部	1/4	15.0	－	(5.8)	タタキのちハケ/ハケ	やや密/2㎜以下の長石・砂岩を少量含む	良好	明赤黄灰色/黄灰色	
354	II区	TP7	II層	古墳前期	広口壺	口縁部	1/16	10.8	－	(7.1)	不明/不明	やや粗/2㎜以下の長石・砂岩を多く含む	良	灰白色/明灰褐色	
355	II区	TP7	II層	弥生終末～古墳前期	広口壺	口縁部	1/15	17.6	－	(5.7)	不明/不明	やや粗/2㎜以下の長石・砂岩を多く含む	良	明黄灰褐色/明灰褐色	
356	II区	TP8	II層	弥生中期	甕	口縁部	1/4	17.6	－	(3.4)	横ミガキ/不明	やや粗/3㎜以下の長石・砂岩を含む	やや良	橙色/橙色	
357	II区	TP8	II層	古墳前期	壺	口縁部	1/8	10.0	－	(2.8)	ハケ/ハケ	密/1㎜以下の長石・砂岩を含む	やや不良	明灰褐色/黒灰色	
358	II区	TP8	II層	弥生後期	甕	口縁部	1/8	20.4	－	(3.6)	ナデ/不明	やや粗・1㎜以下の長石・雲母を少量含む	良好	灰褐色/灰褐色	
359	II区	TP10	II層	弥生後期	壺	口縁部	1/10	22.0	－	(3.0)	ナデ・不明/不明	密/1㎜以下の長石・砂岩を含む	良好	黄赤褐色/明赤褐色	

木製品

図番	調査区	遺構名	器種	木取り	法量(cm)				備考
					現存長	最大幅	最大厚	最大径	
79	1区	SR	鍬先	板目材	24.2	10.2	1.6	—	
80	1区	SR	鍬先	板目材	21.2	9.6	0.7	—	
81	1区	SR	木錘	丸木材	8.0	—	—	6.9	
82	1区	SR	陽物状木製品	丸木材	17.9	—	—	4.6	
83	1区	SR	木製鍬先	柾目材	34.7	8.8	1.3	—	
84	1区	SR	鍬先	板目材	45.5	8.4	1.4	—	
85	1区	SR	木匙	丸木材	29.3	6.2	0.5	0.9(柄)	
86	1区	SR	加工木	丸木材・皮なし	26.7	—	—	2.4	
87	1区	SR	板材	柾目板	25.2	16.5	1.6	—	
88	1区	SR	板材	ミカン割材・芯なし	18.8	6.0	2.7		針葉樹？
89	1区	SR	横槌	丸木材	31.7			6.3(槌部) 3.6(柄)	
90	1区	SR	横槌	丸木材・皮なし	37.3	8.1	—	—	
91	1区	SR	竪杵	丸木材	48.8	—	—	7.8	樫類の樹木？
92	1区	SR	竪杵	丸木材・皮なし	56.5	—	—	7.2	
93	1区	SR	鍬先	板目材	42.3	15.0	2.7	—	
94	1区	SR	鍬先	板目材	40.4	14.4	3.7	—	
95	1区	SR	鍬先	板目材	55.9	15.8	2.7	—	
96	1区	SR	加工棒	丸木材・皮なし	19.7	1.6	1.4	—	
97	1区	SR	加工棒	芯なし・ミカン割材	27.5	2.8	1.6	—	
98	1区	SR	板状木製品	柾目材	14.7	10.1	0.7		
99	1区	SR	板状木製品	柾目板	7.8	14.4	1.0	—	
100	1区	SR	有孔板材	板目材	55.3	20.5	1.8	—	両端に隅丸方形の孔
101	1区	SR	先端加工棒	丸木材・皮なし	62.2	—	—	2.2	
102	1区	SR	有孔板材	柾目板	73.3	14.4	1.8	—	両端に隅丸方形の孔
103	1区	SR	板状木製品	板目材	27.3	8.2	2.8	—	
104	1区	SR	板状木製品	板目材	150.7	7.7	2.1	—	
105	1区	SR	加工材	ミカン割材・芯なし	24.1	4.4	1.5	—	
106	1区	SR	板状木製品	柾目材	20.7	7.1	0.7		
107	1区	SR	板状木製品	柾目板	25.7	4.7	1	—	
108	1区	SR	有孔板	柾目板	42.7	9.9	1.2	—	
109	1区	SR	有孔板材	柾目板	101.7	17.9	2.2	—	両端に隅丸方形の孔
110	1区	SR	有孔板材	柾目板	48.4	17.9	1.1	—	

石器

図番	調査区	遺構名	層位	器種	石材	製作技法	法量(cm) 全長	全幅	全厚	重量(g)	備考
111	1区	SD104	上層	石鏃	サヌカイト	打製	(4.1)	(2.2)	0.5	(3.8)	
112	1区	SD104	下層	石包丁	粘板岩	打製	(8.5)	4.1	(0.75)	(46.8)	
113	1区	SD103		石斧	粘板岩	磨製	8.5	3.8	1.35	91.1	
114	1区	SR	Ⅳ層	石包丁	頁岩	磨製	(8.9)	4.3	(1.05)	(60.0)	
115	1区	SR	Ⅳ層	石包丁	緑色岩	磨製	14.75	4.1	0.7	61.4	
116	1区	SR	Ⅲ層	石包丁	緑色岩	磨製	(8.5)	4.1	(0.75)	(46.8)	
117	1区	SD103	中層	石鏃	頁岩	打製	(11.1)	5.1	1.5	(106.4)	
118	1区	SR	Ⅳ層	石包丁(スクレイパー)	サヌカイト	打製	8.4	5.45	0.8	36.2	
119	1区	SD103	砂層	石剣	頁岩	磨製	17.1	4.7	1.6	183.2	

瓦

図番	調査区	時代	器種	法量(cm) 全長	全幅	器厚	成形・文様・調整(外面／内面)	胎土	焼成	色調(外面／内面)	備考
289	調	近・現代	桟瓦	25.5	28.7	1.4		やや粗	良好	灰黄色/灰黄色	
290	調	近・現代	軒桟瓦	25.5	(24.4)	1.8	巴文・唐草文	やや粗	良好	暗青黒灰色/暗灰青色	
291	2区	古代	平瓦	(8.9)	(12.0)	2.9	布目圧痕/縄目圧痕	密	良好	黄白色/黄灰白色	
292	調	近・現代	軒桟瓦	(2.1)	(11.3)	－	巴文・唐草文	やや粗	良好	黒灰色/暗灰黒色	
293	調	近・現代	丸瓦	(11.3)	(9.8)	2	／ナデ	粗	良好	暗青黒色/暗青黒色	
294	調	近・現代	軒桟瓦	(6.1)	(11.5)	1.7	唐草文	やや密	良	灰黒色/灰褐色	
295	調	近・現代	軒桟瓦	25.7	25	1.8	巴文・唐草文	密	良好	暗青黒色/暗灰黒色	端部釘穴
296	調	近・現代	桟瓦	25.3	24.5	1.4		やや粗	良好	暗青黒色/暗青黒色	

第Ⅴ章　おわりに

第1節　SRを取り巻く生活空間の推移

今年度における介良遺跡の調査の中心も昨年度までと同様，介良川の旧河道（SR）であり，その川筋はほぼ現在の介良川に並行して南流している。1区に関しては流域が介良川と重複する部分もかなり見られ，調査で検出されたSRは肩の部分のみといってもよいだろう。流速自体は昨年度までと同様決して速くなく，この場所での大きな氾濫の痕跡は見られない。そして出土状況や摩滅の度合いからも遺物はほぼ原位置を保っているものと思われる。

堤防際に設定したトレンチ（TR103～105）より出土した遺物がSR出土分の大半を占めるが，時代的にも性格的にも昨年度の1～3区とは様相を異にする。今年度の中心となった弥生中期前半～後期中葉くらいまでの遺物は昨年度の調査においても量的には今年度と同程度出土していた。しかし，それ以上に圧倒的多数を占めた時期は弥生終末～古墳初頭のいわゆる「ヒビノキ式」と呼ばれる土器である。そして，遺物の出土状況等から祭祀後の一括投棄を想定した。しかし，今年度の調査においては，弥生終末～古墳初頭の遺物は極端に少ない。今年度の中心となった弥生中期～後期にかけては日常的な壺，甕が多く見られる。高坏の脚部が1点見られるが，この場所での祭祀を想定できるものではない。

古墳時代前期の遺物は1区では昨年とほぼ同等の規模で出土しており，遺物の傾向としては前年までとの大きな差異は見られない。小型丸底壺が数点と高坏の脚部が1点出土するものの，出土状況よりにわかに祭祀を想定するには至らない。

SRにおいて今年度はじめて弥生前期の遺物が出土している。前期末頃の甕が1点出土するのみであるが，さらに上流へ遡ればある程度一括して出土する可能性も考えられる。

2区で検出されたSRは時代的にも前年度までと同様，弥生終末～古墳初頭の範疇で捉えられる。しかし，遺物量は北接する'96年度SRと比べてはるかに少なく，いわば生活空間の末端であったと考えられよう。

また，'96年度の調査ではややまとまった量の須恵器が出土したものの，今年度は小片が数点見られたのみであった。

以上，SRをベースとした弥生時代～古墳時代前期の生活空間は時代が変化するにつれて，その場所をすこしずつ変えていく状況が推察される。弥生中期には今年度の1区から昨年度の2区まで広がっていたものが弥生終末～古墳初頭には昨年度の3区から今年度の2区まで南下する。また，このとき97年度の2区周辺で河川祭祀が行われたようである。古墳時代前期ではさらにその範囲を広げて今年度1区から'96年度調査区にまで至るその流れが大雑把にではあるが推察されよう。もちろん，これだけの時代幅の中でSRを利用した集落が同じ系譜を引くものか，あるいはまったくの別物であるかという問題点は残るが，この点についてはいずれSRの周辺において当該期の集落遺跡が調査されることになれば明らかにされるであろう。

（参考文献）

坂本憲昭・田坂京子　『介良遺跡』（財）高知県埋蔵文化財センター　1997.3

田上　浩・松田重治　『介良遺跡Ⅱ』　高知市教育委員会　1998.6

第2節　検出遺構について

1区の調査において，SD103，108といった2条の弥生時代前期の遺構が検出された。同時期の遺物は昨年度の調査で3区の洪水層（Ⅵ層）からある程度まとまって出土してはいるものの，遺構として検出されたのは今回がはじめてである。

SD103は弥生前期末頃の遺構であるが，土器のほか磨製の石剣および扁平片刃石斧が出土しており，そのいずれもが完形品である。とくに石剣は県下でも最も古い段階のものと思われ，高知県における石器を考える上で欠かすことのできないものとなろう。

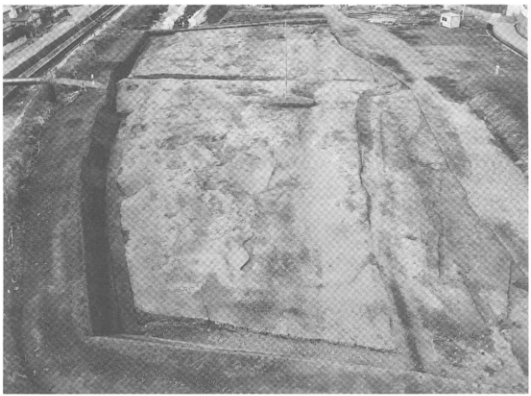
SD108では出土遺物は甕の口縁～体部が約1／2残るのみであるが，前期でも比較的古い段階のものである。

SD104は弥生中期～古墳後期の遺構であるが，昨年度のSD101に繋がると思われる溝状遺構である。昨年度は中～近世の遺構としていたが，弥生中期～古墳後期の遺構であり，昨年度混入品としたものはこの溝に伴うものである。SD104において特筆すべきは古墳時代前期頃の高坏の量である。完形になる個体は見うけられないが，当該期の遺物の大半が高坏をはじめとする祭祀に関係の深い遺物であることは興味深い。長期間機能しつづけたこの溝において，ある一定の期間祭祀に関連した時期があったのであろう。

2区での主な遺構は古代の溝が1条（SD203）と掘立柱建物（SB201）が1棟である。SD203は須恵器・壺の底部が多く，時期の詳細を決定するには至らない。またSB201はピットの1つをSD203に切られている。SB201はピットの平面形状が方形の2間×2間の規模を持つ。ここからの遺物は細片が出土するのみで，時期を決定するには至らないが，この建物に関連する古代の集落が調査区の西側に広がっているものと思われる。

祠からはややまとまって中世の遺物が出土している。出土遺物や埋土からみても祠の成立が中世にまで溯るとは到底考えられず，むしろ祠を構築するために盛った土の中にこれらの遺物が混入したと考えるほうが自然であろう。青磁や東播系須恵器が含まれ，付近に中世の遺跡の存在が考えられる。

写　真　図　版



完掘（１区・東より）

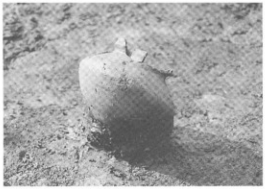
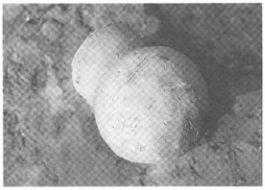
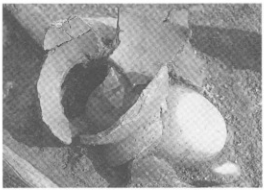
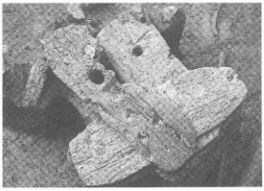
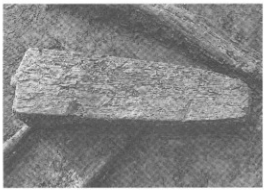
完掘（２区・南より）

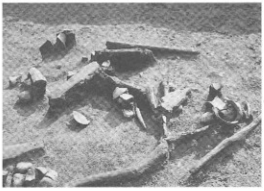
1区土層（ＴＲ102）

1区土層（ＴＲ102）

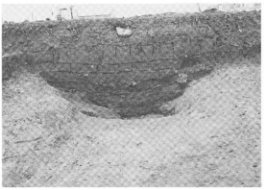
1区　SR

遺物出土状況（1区SR）



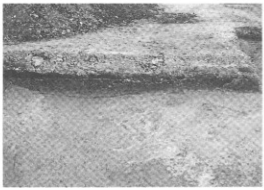
遺物出土状況（１区ＳＲ）



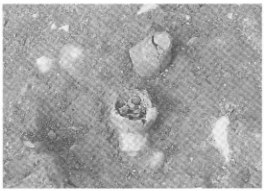
ＳＤ103土層

ＳＤ103遺物出土状況

ＳＤ104完掘

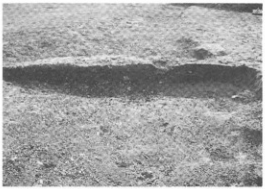


ＳＤ104土層



ＳＤ104遺物出土状況

調査風景

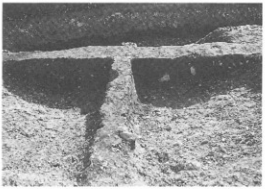


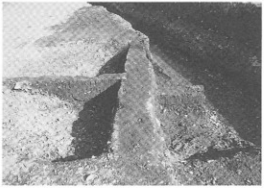
S D 203土層

S B 201

S D 201土層

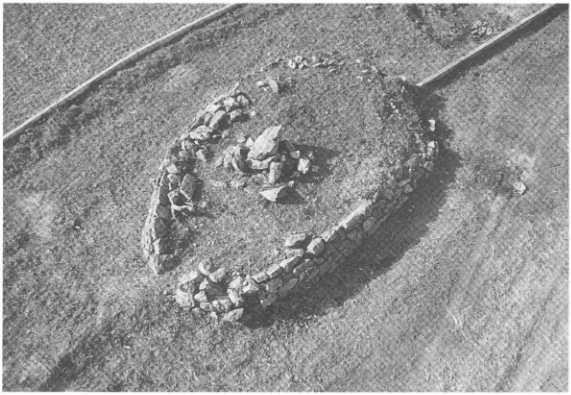
S D 201遺物出土状況





S K 201土層（南北，東西）

2区S R遺物出土状況

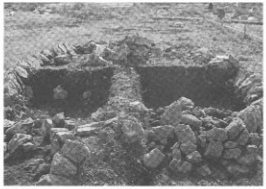


祠（上空より）

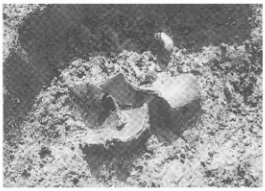
祠（東より）

祠（北より）

祠土層（東西）



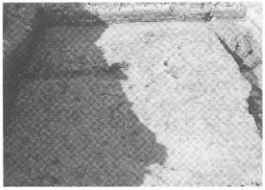
祠土層（北より）



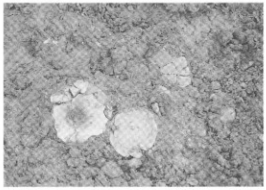
Ⅰ区ＴＰ－３土器出土状況

Ⅰ区ＴＰ－７土器出土状況

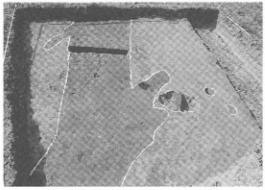
Ⅰ区ＴＰ－９土器出土状況



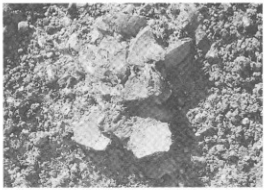
Ⅰ区ＴＰ－９完掘（南から）



Ⅱ区ＴＰ－２土器出土状況



Ⅱ区ＴＰ－３遺構検出状況



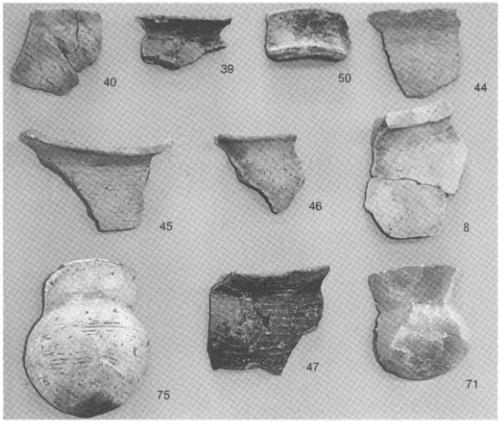
Ⅱ区ＴＰ－７土器出土状況

Ⅱ区ＴＰ－７土器出土状況

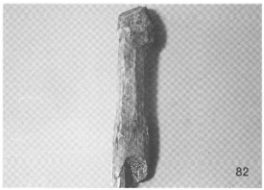
写真1

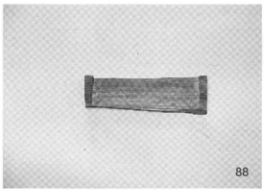
1区SR出土遺物（1）

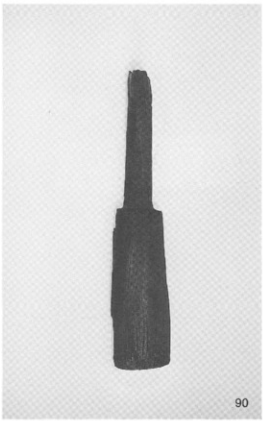
写真２



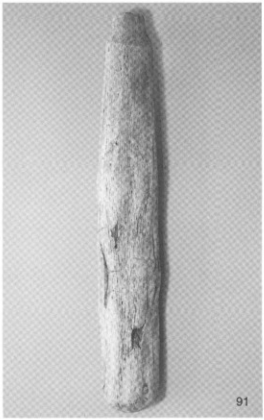
１区ＳＲ出土遺物（２）

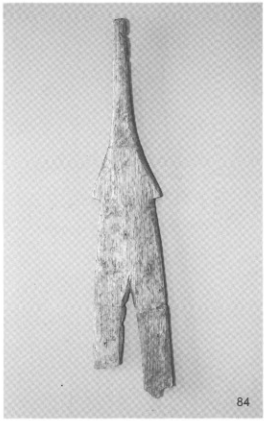


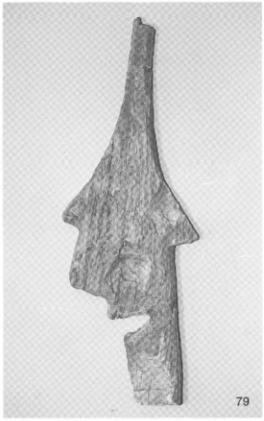




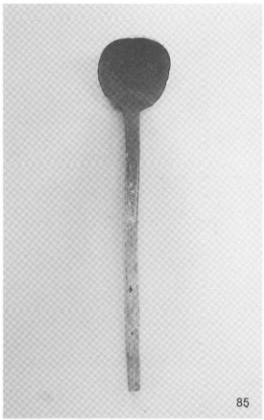
1区SR出土遺物（3）

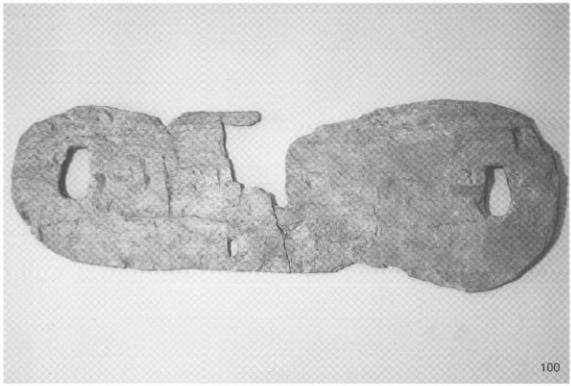




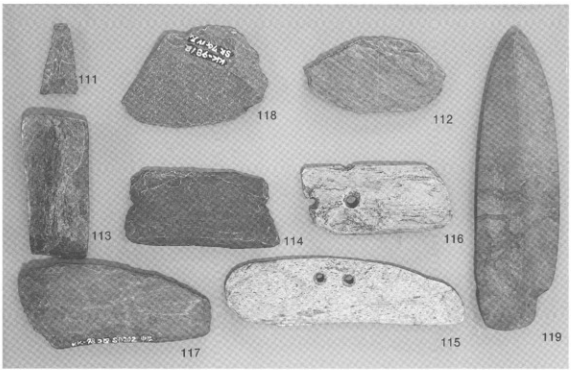


1区ＳＲ出土遺物（４）

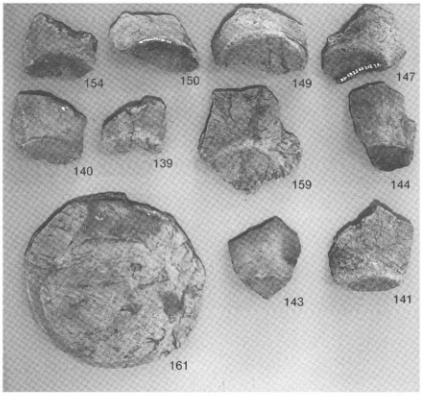




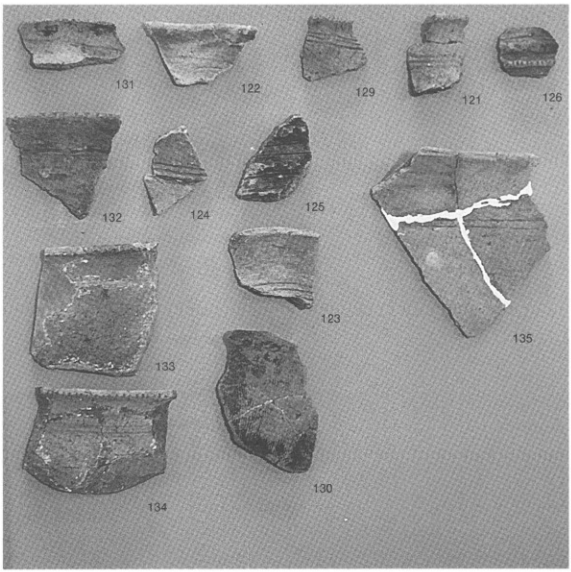
1区SR出土遺物（5）

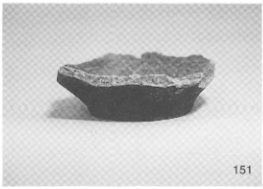


1 区出土石器

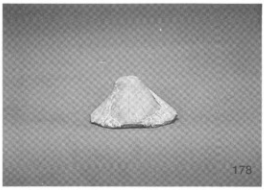


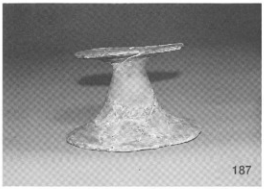
S D 103 出土遺物

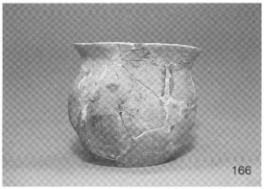




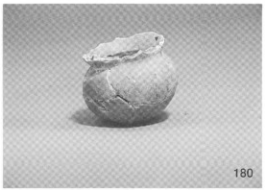
ＳＤ103出土遺物（１）

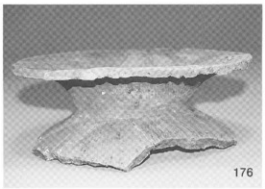


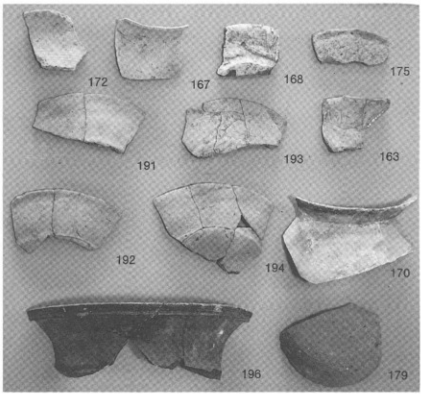




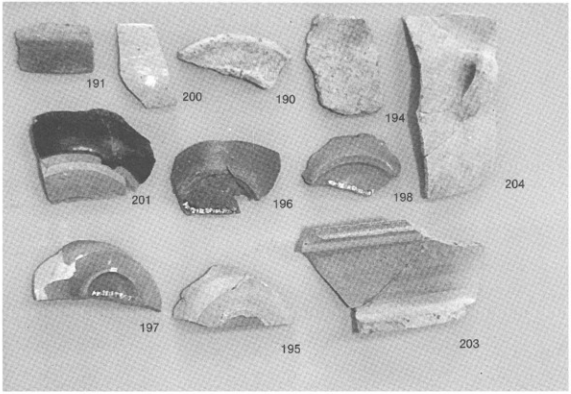
ＳＤ104出土遺物（１）







ＳＤ104出土遺物（２）



洪水礫層出土遺物